



あしたへ

For tomorrow



全国読売防犯協力会
設立 20 周年記念誌



読売防犯協力会の基本活動

- 1 配達・集金などの業務中に不審者・異常事態に気づいた際の、積極的110番通報
- 2 「こども110番の家」への全店登録推進
- 3 高齢者の見守り・声かけ
- 4 ミニコミ紙やチラシを使った防犯情報の発信

※「YCの日常業務の範囲でできる活動」を原則とする

Contents

目次	1
全国読売防犯協力会名簿・組織図	2
全国読売防犯協力会会長・清水和之、読売新聞東京本社専務取締役・販売担当 矢ヶ崎貢 あいさつ	3
全国読売防犯協力会副会長・井上登志男、松田陸夫 あいさつ	4
祝辞 警察庁、警視庁、全国防犯協会連合会	5
全国読売防犯協力会20年の歩み	7
警察庁・警視庁などから感謝状	9
主な防犯活動2024	10
2014～23年の防犯活動	11
OBの声 Y防協の歴史を語る	21
東京本社管内防犯セミナーの講師陣	27
全国統一防犯パトロールデー	29
防犯リーフレット	31
読売防犯川柳の足跡	33
読売防犯川柳 安藤波瑠氏(全日本川柳協会常任理事、川柳きやり吟社主幹)講評	36
ウェブサイト「ぼうはん日本」 編集後記	37

※本文中の肩書・役職名・地区名・YC名などは当時のものです。

【全国読売防犯協力会名簿】

2024 年 7 月 1 日現在

協力会名称	会長名	参加本店数	発足日
全国読売防犯協力会	清水 和之	3,193	2004年7月 9日
東京管内読売防犯協力会	清水 和之	1,689	2004年7月 9日
東京読売防犯協力会	濱田 克己	165	2003年6月23日
多摩読売防犯協力会	八鍬 秀雄	99	2003年6月23日
神奈川県読売防犯協力会	藤井 孔明	180	2003年7月18日
埼玉県読売防犯協力会	竹内 雅司	173	2003年7月15日
千葉県読売防犯協力会	佐藤 政敏	168	2003年7月16日
群馬県読売防犯協力会	山本 国雄	49	2003年8月 9日
栃木県読売防犯協力会	前田 賢一	52	2003年7月25日
茨城県読売防犯協力会	早坂 明	102	2003年8月18日
静岡県読売防犯協力会	古川 英勝	31	2003年9月10日
山梨県読売防犯協力会	高橋 博行	15	2003年8月 8日
長野県読売防犯協力会	石館 隆	33	2003年9月 1日
新潟県読売防犯協力会	中島 一馬	35	2003年9月26日
福島県読売防犯協力会	一瀬 敦	61	2003年9月 3日
宮城県読売防犯協力会	鈴木 茂人	35	2003年8月 1日
山形県読売防犯協力会	松崎 広明	27	2003年9月 2日
岩手県読売防犯協力会	立野 和彦	25	2003年9月 9日
青森県読売防犯協力会	大越 長彦	19	2003年9月10日
秋田県読売防犯協力会	渡邊 利明	26	2003年9月16日
富山県読売防犯協力会	石倉 創	30	2003年7月25日
石川県読売防犯協力会	佐々木 充	30	2003年8月 8日
北海道読売防犯協力会	内山 繁美	171	2003年8月25日
愛知県読売防犯協力会	高橋 淳一	91	2003年9月12日
岐阜県読売防犯協力会	足沢 隆	34	2003年9月12日
三重県読売防犯協力会	福井 淳	38	2003年9月12日
大阪管内読売防犯協力会	竹田 慎一郎	1,104	2004年7月 9日
福井読売防犯協力会	吉野 邦彦	27	2003年8月20日
滋賀読売防犯協力会	辻橋 洋子	55	2003年9月29日
京都読売防犯協力会	澤田 一	83	2003年9月22日
大阪読売防犯協力会	高島 一路	256	2003年7月 8日
兵庫読売防犯協力会	藤田 周三	167	2003年8月11日
奈良読売防犯協力会	堂脇 智史	46	2003年8月28日
和歌山読売防犯協力会	出射 健一郎	52	2003年9月 9日
鳥取読売防犯協力会	石川 清美夫	32	2003年9月 2日
岡山読売防犯協力会	奥田 吉隆	69	2003年8月18日
広島読売防犯協力会	伊藤 泰宏	100	2003年9月11日
徳島読売防犯協力会	鳥取 和弘	29	2003年8月29日
香川読売防犯協力会	正木 代	35	2003年8月 8日
愛媛読売防犯協力会	尾形 大吾	47	2003年8月19日
高知読売防犯協力会	城内 信次	24	2003年8月18日
島根読売防犯協力会	中村 良宏	82	2003年8月19日
西部管内読売防犯協力会	河洸 浩幸	400	2004年7月 9日
山口県読売防犯協力会	尾崎 知宏	75	2003年8月18日
福岡県読売防犯協力会	持田 宏宜	131	2003年9月16日
佐賀県読売防犯協力会	松田 陸夫	20	2003年8月 5日
長崎県読売防犯協力会	齊藤 秀治	41	2003年8月19日
熊本県読売防犯協力会	洲 正	44	2003年9月11日
大分県読売防犯協力会	皆良田 英俊	34	2003年8月18日
宮崎県読売防犯協力会	山岡 英俊	20	2003年9月 1日
鹿児島県読売防犯協力会	建川 貴	35	2003年8月18日

全国読売防犯協力会は2004年7月9日に発足し、今年で設立20周年となりました。

設立前の2002年版の犯罪白書では、刑法犯の認知件数は1996年以降6年連続して戦後ワースト記録を更新し続け、01年には前年よりも約32万5000件増加の約358万件に達したことが報告されました。その一方で、交通関係の業務上過失を除く刑法犯検挙率は戦後初めて20%を下回ったことも報じられました。

治安の悪化に際し、読売新聞社は東京・大阪・西部の3本社編集局が03年2月から「治安再生」の共通タイトルで連載キャンペーンを展開しました。

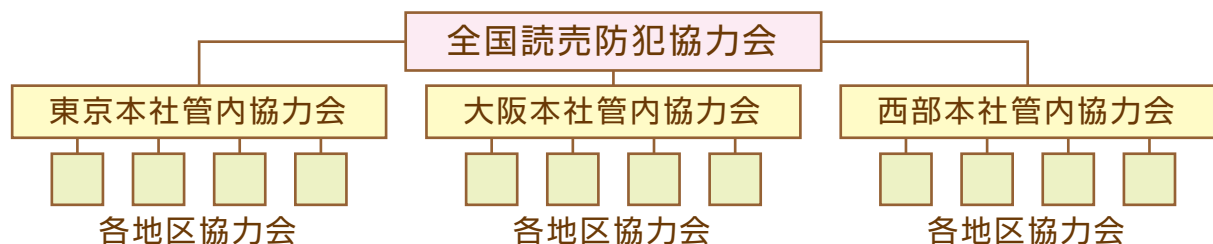
これに合わせる形で東京本社幹部の発案で、紙面と連動してYCによる「防犯活動」での地域貢献を始めました。東京都内では警視庁の要請もあり、この年の6月23日に東京23区と多摩の両連合読売会に防犯協力会を設け、警視庁と連携し防犯活動に取り組みこととしました。

大阪でも、この年の7月8日に防犯協力会が設立されました。大阪府では、01年に認知された刑法犯が約32万7200件と初めて全国の都道府県で最多となったことから、大阪本社は発刊50周年キャンペーンとして02年1月から「大阪を安心のまちに」を本紙大阪版などで展開しました。大阪府も防犯強化のため同じ年の4月1日から「安全なまちづくり条例」を施行しました。行政、市民、警察が一体となつての協力が進んでおり、防犯協力会の構築へとつながりました。

こうして03年9月には46都道府県で防犯協力会のネットワークが完成し、全国読売防犯協力会の発足へと至りました。

本誌では、関係者からいただいた祝辞のほか、これまでに「販売ニュース」に掲載された記事を再掲するなど、これまでの活動を振り返ります。

全国読売防犯協力会組織図





安全安心の街づくりに貢献

全国読売防犯協力の会 会長 清水 和之

日頃、全国読売防犯協力の会（Y防協）の活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。Y防協は2024年7月に設立20周年を迎え、YC（読売センター）は防犯活動を一層充実させて、地域の皆様にお役に立てる活動を展開しております。

さて、Y防協は03年に読売新聞社が新聞紙上で連載企画「治安再生」の犯罪防止キャンペーンを展開したことに呼応し、YC

Cスタッフの皆様さらに防犯の意識を高めてもらうことが目的です。今までも配達中、徘徊するお年寄りの保護や自宅で倒れていた方の発見につながった事例は多々あります。

地道な活動の積み重ねにより、YCは安全安心の街づくりに貢献し、読者や地域住民に信頼される存在となることを目指しています。地域密着の活動を広く周知し、YCの存在感を高めることが読売新聞のアピールにもつながるものと信じております。

読売新聞創刊150周年の節目に、Y防協は20周年以降を見据え、唯一無二の全国紙にふさわしい販売網構築のため、今後も地域に根差した社会貢献活動により一層積極的に取り組んでまいります。



将来を見据えた防犯活動を

読売新聞東京本社専務取締役・販売担当 矢ヶ崎 貢

YC（読売センター）の皆様には日頃、全国読売防犯協力の会（Y防協）の活動に深いご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

2024年はY防協設立20周年、読売新聞創刊150周年の節目です。Y防協設立時の初心に戻り、将来を見据えた地域貢献活動に取り組んでまいります。

Y防協は04年の発足後、各都道府県警察

本部と防犯覚書を結び、全国各地で警察と連携した活動を続けています。YCが警察や自治体などと結んだ見守り活動などの協定は171件に上ります。

20年間の活動の積み重ねが評価され、Y防協は24年度、警察庁や警視庁などから感謝状を贈られました。YCの皆様が日々、地域の安全、安心を守ることに尽力してこられたたまものといえます。

新聞業界とYCは今、激動の中にあります。そのような時代だからこそ、地域に貢

献し、なくてはならない頼られる存在になることには大きな意義があります。Y防協の理念を今一度、各YC所長、スタッフとも共有し徹底することが必要です。

毎月25日の「全国統一防犯パトロールデー」は地域とのかかわりを深めるきっかけになります。全国の防犯ボランティア団体とYCが地域の防犯活動で連携することを目標に掲げています。全国の販売網を生かして、「唯一無二の全国紙」の強みを發揮した活動を展開するためです。

読売販売陣営は将来につながる基礎、土台、基本づくりを進め、強い販売網作りに全力を尽くします。Y防協も20年かけて築いた土台を固め、さらなる活動の充実を目指すようお願い申し上げます。

街と接するYC業務 「人の力」で活動実践



全国読売防犯協会
副会長

井上 登志男

読売新聞大阪本社管内を担当する全国読売防犯協会副会長の井上でございませう。

弊会は、今年で設立20周年を迎えました。会の設立当時と比べ、犯罪の件数は激減しております。

しかし、「闇バイト」という言葉に象徴されるように、短絡的に白昼堂々と敢行される強盗事件や、高齢者を狙う強盗事件や特殊詐欺事件が多く発生しています。また女性や子どもが狙われる犯罪なども増えており、世の中の犯罪に対する不安は未だ払拭されていません。

この様な時にこそ、街のすみずみまで知り尽くし、街の皆様と接する新聞販売業務の「人の力」が街の安全の力になれると考え、これまで以上に防犯の活動を実践していきます。

今後とも弊会へのご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日頃業務で声かけ 大切な読者を守る



全国読売防犯協会
副会長

松田 陸夫

全国読売防犯協会(Y防協)の設立20周年を迎え、読者や地域の人たちが安全・安心に暮らせる街づくりに参加できることを心より誇りに思っています。

西部本社管内では、Y防協20周年を機に、読売会の会議に警察本部の担当者を招いた講演会を各地で開いています。万引きや空き巣、車上狙いが減る一方、昨今では、電話詐欺の被害が深刻で、独り暮らしの高齢者が狙われています。大切な読者が被害に遭わないよう、日頃の業務で声をかけ、注意を促していきたいと思っています。

うれしいニュースがありました。福岡県読売防犯協会(測正会長)とYC空港前(西村眞津美所長)が2023年度の福岡県知事表彰を受けました。今後は、各県でも活動の花を咲かせたいと考えています。

YCだからできる社会貢献活動。その一つが防犯活動です。みんなが暮らしやすい街づくりに貢献できるよう、健康と安全運転を心がけ、頑張っていきたいと思います。

特殊詐欺の被害額増 実例知らせて防御へ

犯罪統計資料(警察庁刑事局)によると、2002年の刑法犯の認知件数は285万3739件で、戦後最悪となった。危機的な状況に、官民を挙げた「犯罪防止」の取り組みが進められ、以降は19年連続で減少し、21年には戦後最少の56万8104件となった。

しかし、22年からは増加へ転じ、23年の殺人・強盗・放火などの「重要犯罪」の認知件数は、21年の8821件を大きく上回る1万2372件となった。これは、特殊詐欺だけではなく強盗などでも、SNSで実行犯を募集する「闇バイト」の手口が横行していることに起因していると考えられている。財産犯による被害額の増加も目立っている。

顕著なのは特殊詐欺による被害で、認知件数は20年から3年連続、被害額も21年から2年連続で増えている。中でも「架空料金請求詐欺」の23年の認知件数は、前年比で2276件増の5198件に達した。23年下半期からは、SNSを使用した非対面型の投資詐欺(著名人をかたり架空の投資話を持ちかける)や、マッチングアプリなどでのロマンス詐欺(親近感や恋愛感情を抱かせ金銭などをだまし取る)が急増。インターネットバンキングでの不正送金被害も過去最悪となっている。

インターネットやSNS、アプリなどを悪用した犯罪の被害を防ぐには、手口や実例、防御策を広く知らしめることが欠かせない。地域の警察や防犯ボランティア団体などの連携をさらに強めながら、チラシやミニコミ紙などの発信や、配達・集金時などでの読者への注意喚起を心がけたい。

警察庁、警視庁、全国防犯協会連合会の関係者から、設立20周年にあたっての祝辞が寄せられました。

時代の変化で新たな犯罪 官民さらに連携し対策を

警察庁生活安全局
生活安全企画課長

阿波 拓洋

全国読売防犯協力の会の設立20周年に当たり、心からお祝いを申し上げます。

貴協力の会におかれましては、2004年（平成16年）の設立以来、各都道府県警察と防犯協定を締結され、安全安心なまちづくりに積極的に取り組んでいただいております。ことに、心から敬意を表します。

さて、我が国の治安情勢は、この四半世紀の間、大きく改善して参りましたが、ここ最近では、新型コロナウイルス感染症の流行により停滞していた社会活動が正常化する中、刑法犯認知件数も増加の兆しが見られ、SNSで実行犯を募集する手口の特殊詐欺や強盗事件の発生、サイバー空間における脅威の深刻化もあり、治安情勢は依然として大変厳しい状況にあります。

時代の変化に伴い、新たな脅威や犯罪形態が生じている中で、警察が治安課題を敏感に察知し、先手先手で対策を講じて行くためには、これまで以上に官民の連携が重

要であると考えております。

貴協力の会において、防犯意識の高揚に向けた防犯川柳コンテスト等の開催、リーフレットやチラシによる防犯情報の発信、子どもへの安全に関する防犯セミナーの開催など、地域に根ざした様々な活動を展開されていることを大変心強く感じるとともに、その精力的な取組に対し、心より感謝申し上げます。

引き続き、地域社会の安全安心のためにご尽力いただきますとともに、警察業務に對するご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協力の会がますますのご発展と皆様のご健勝・ご多幸を祈念いたします。また、お祝いの言葉とさせていただきます。

顔の見える関係ベースに 一層の緊密な協力不可欠

警視庁生活安全部長

佐野 裕子

全国読売防犯協力の会が発足20周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協力の会は、2004年に「治安再生」を図る目的で設立されて以降、全国の都道府県警察との間で緊密な連携を築いてこられたほか、都内においても、05年12月に当庁との間で締結された「防犯活動等に関する覚書」に基づき、長きにわたり、安全安心

なまちづくりに熱意をもって取り組んでいただいていることに、心から感謝と敬意を表します。

特に、毎年の全国地域安全運動期間中に展開されるイベント開催や新聞折込を通じた防犯広報へのご協力は、地域の住民の方々の防犯意識を高める上で、極めて大きな効果を持つものであると認識しており、改めてお礼を申し上げます。

都内における犯罪認知件数は、コロナ禍を経て人の流れが回復するに伴い、若干の増加傾向にあり、中でも、いわゆる「闇バイト」に応じた者を実行犯とする強盗や特殊詐欺の発生が相次いでいるほか、女性や子どもをねらった犯罪が続発するなど、予断を許さない状況にあります。

このような情勢の中、犯罪が起こりにくいまちづくり、そして、犯罪被害から身を守る力の向上に向けた取り組みは、ひとり警察だけで担えるものではなく、貴協力の会の皆様との顔の見える関係をベースとする、より一層緊密な連携・協力が不可欠です。

どうか、貴協力の会におかれましては、設立20周年を契機として、時代の変化に応じた柔軟かつ多角的な視点から、安全安心なまちづくりに向けた取組を、より強力に推進していただけると幸いに存じます。

結びに、貴協力の会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

参加型の防犯対策推進し
地域の絆や連帯の強化を(公財)全国防犯協会連合会
代表理事

田中 法昌

全国読売防犯協力会が設立20周年をお
迎えたことに対して、衷心よりお喜
びとお祝いを申し上げます。

さて、貴会発足当時の治安情勢を振り返
りますと、刑法犯認知件数は2002年に
は285万件を超え戦後最大となり、この
ままでは世界に誇る日本の安全は維持で
きなくなるのではないかの懸念が広がっ

ていました。

このような状況下、官民を挙げて参加型
の防犯対策を強力に推進したところ、刑法
犯認知件数は19年連続の減少となり、21年
には56万件余とピーク時の約2割までに
なりました。

この成果の陰には、貴会の20年にわたる
貢献があり、これまでの防犯活動に対し心
から感謝申し上げます。

しかしながら、最近の治安情勢について
みますと、刑法犯認知件数は、22年、23年と
二年連続で増加に転じ、コロナ前の水準に
近づいてきています。

また、犯罪の内容も、女性や子どもなど
を対象とする卑劣な犯罪、社会的に重要な
インフラを妨害するサイバー犯罪、そして
高齢者に被害を与える特殊詐欺などが多
数発生しており、国民の安全安心が大きく
脅かされる状況となつてきております。

官民一体となった防犯対策をさらに推
進し、地域の絆や連帯の再生・強化を図る
ことが重要であります。

貴協力会のますますのご活躍を期待し
てやみません。

全国警察本部と
「防犯覚書」締結

全国読売防犯協力会は、47都
道府県警察本部との間で「防犯
覚書」を下表のように締結してい
ます。

「防犯覚書」では、読売新聞の販
売店で構成する各都道府県読売
防犯協力会が「犯罪のない安全で
安心して暮らせる街」を実現する
ことを目的に、各都道府県警察
本部と連携を深め、パトロールや
防犯広報への協力など、積極的に
地域の防犯活動を行うことを定
めています。

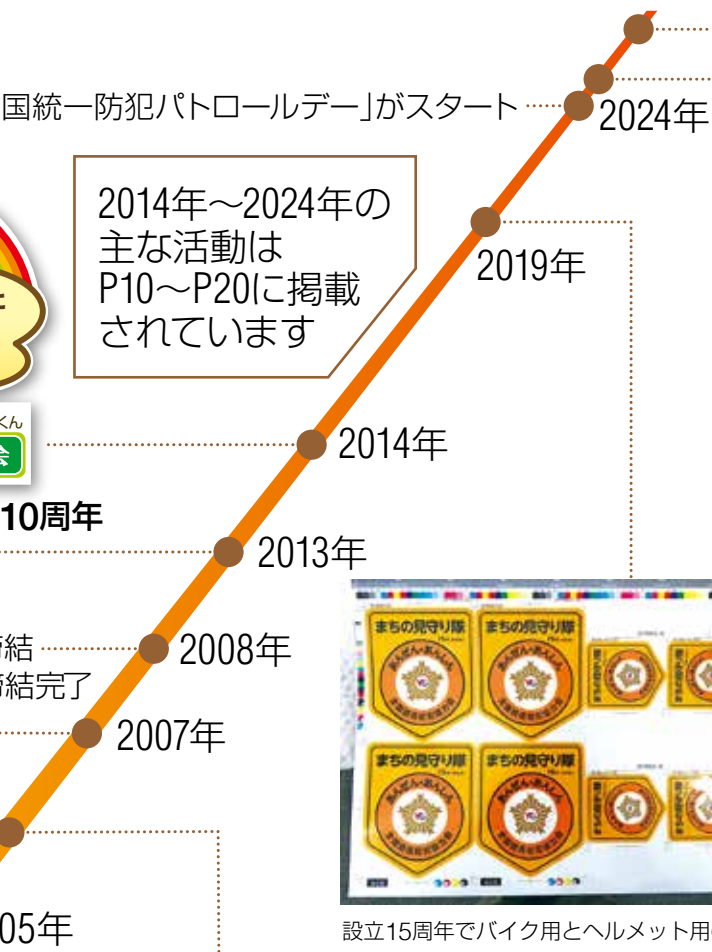


宮城県警本部と覚書締結（2006年2月）

【「防犯覚書」締結日一覧表】

警 察	締結日	警 察	締結日
高 知 県 警	2005年11月 2日	鹿 児 島 県 警	2006年 7月 6日
福 井 県 警	2005年11月 9日	千 葉 県 警	2006年 7月12日
香 川 県 警	2005年12月 9日	山 梨 県 警	2006年 7月12日
岡 山 県 警	2005年12月14日	大 分 県 警	2006年 7月18日
警 視 庁	2005年12月26日	長 野 県 警	2006年 7月31日
鳥 取 県 警	2005年12月28日	福 島 県 警	2006年 8月 1日
愛 媛 県 警	2006年 1月16日	佐 賀 県 警	2006年 8月 1日
徳 島 県 警	2006年 1月31日	大 阪 府 警	2006年 8月 4日
群 馬 県 警	2006年 2月14日	青 森 県 警	2006年 8月11日
島 根 県 警	2006年 2月21日	秋 田 県 警	2006年 8月31日
宮 城 県 警	2006年 2月27日	神 奈 川 県 警	2006年 9月 1日
静 岡 県 警	2006年 3月 3日	埼 玉 県 警	2006年 9月14日
広 島 県 警	2006年 3月13日	山 形 県 警	2006年 9月27日
兵 庫 県 警	2006年 3月15日	富 山 県 警	2006年 9月29日
栃 木 県 警	2006年 3月23日	岩 手 県 警	2006年10月 2日
和 歌 山 県 警	2006年 5月 1日	石 川 県 警	2006年10月10日
滋 賀 県 警	2006年 6月 7日	三 重 県 警	2006年10月10日
福 岡 県 警	2006年 6月 7日	愛 知 県 警	2006年10月16日
山 口 県 警	2006年 6月12日	岐 阜 県 警	2006年10月17日
長 崎 県 警	2006年 6月13日	奈 良 県 警	2006年10月17日
茨 城 県 警	2006年 6月14日	北 海 道 警	2006年10月19日
宮 崎 県 警	2006年 6月19日	新 潟 県 警※	2003年 9月26日
熊 本 県 警	2006年 6月29日	沖 縄 県 警	2008年 6月12日
京 都 府 警	2006年 6月30日		

※新潟県警との締結は、03年9月に当時の生活安全部長と新潟県読売防犯協力会が締結したもの。
県警の希望でY防協発足後に新規更新はしていない。



7月 全国読売防犯協会20周年



留学生スタッフによる子ども見守り活動の覚書を手にする
(左から)読売新聞東京本社・村岡彰敏社長、東京都・小池百合子知事、
東京読売防犯協会・濱田克己会長(2024年3月)



設立15周年でバイク用とヘルメット用の
防犯ステッカーを作製(2019年7月)



店頭に置かれた緑色回転灯
インボード」



警察署での防犯パトロール隊出陣式を
終えて続々と出発するYCスタッフら
(2004年8月、東京都町田市)



消防署での救命講習を受ける岐阜県
読売会のYC所長とスタッフ
(2004年1月)



埼玉県警など主催の防犯キャンペーンで、パレード
に参加するYC所長や販売局員(2006年10月)

全国読売防犯協力会20年の歩み

1月「全



イベント会場での防犯啓発活動も続けられている。
つづき春の地域安全・安心フェア2013での活動の
様子(2013年4月)

[7月]



全国読売防犯協力会



読売新聞特製の防犯ブザーを新入学児童へ
贈呈する活動も続いた(2005年)

6月 沖縄県警と防犯協定締結
47都道府県の警察と締結

7月 ウェブサイト「ぼうはん日本」開設

2006年

10月 第1回読売防犯川柳コンテスト開催

20



第1回全国読売防犯協力会正副会長会議
(2004年12月)

7月 全国読売防犯協力会が発足

2004年

大津警察署坂本交番前での
YCスタッフの「防犯協力
結束式」を取り上げた
ミニコミ紙「ぼけっと」
(2003年10月)



9月 46都道府県で防犯協力会の
ネットワークが完成

6月 東京23区と多摩地区で
読売防犯協力会が発足

2003年

2月 読売新聞の紙面で「治安再生」
企画スタート

治安
再生



約300のYCの
つきの「防犯サ

警察庁、警視庁などから感謝状

Y防協20年の活動評価

全国読売防犯協力会（清水和之会長、Y防協）に2024年、警察庁と警視庁などから感謝状が贈られた。

全国各地で20年間にわたり防犯活動を推進したことが評価された。

Y防協には24年現在、全国約3200店のY Cが参加している。Y Cスタッフらは新聞配達や集金などの業務を通じて子どもやお年寄りの見守りなどの活動を行っており、24年1月からは毎月25日を「全国統一防犯パトロールデー」と定めて活動を強化した。

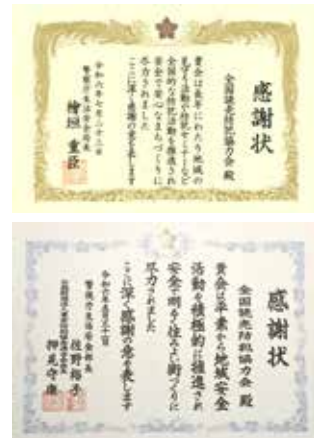
Y Cでは防犯チラシや防犯リーフレットを作製して読者らに配り、地域の警察署のチラシを折り込むなど住民らへの情報提供に協力している。小中学生らを犯罪被害から守るための防犯セミナーも続けている。

警察庁（東京都千代田区）では7月23日、感謝状の贈呈式が行われ、清水



警察庁の檜垣生活安全局長から感謝状を受けた清水会長（左）

会長が同庁の檜垣重臣・生活安全局長から感謝状を受けた。



檜垣局長は「見守りに伴う警察への通報や各警察署の防犯広報の情報発信で協力いただき、頭の下がる思いだ。安全な地域づくりのために販売店の方々に活動していただいて非常に助かっている」と話した。清水会長は

Y防協 20年の歩み

2003年	2月	読売新聞の紙面で「治安再生」企画スタート
	6月	東京23区と多摩地区で読売防犯協力会が発足
	9月	46都道府県で防犯協力会のネットワークが完成
2004年	7月	全国読売防犯協力会が発足（7月9日）
2005年	10月	第1回読売防犯川柳コンテスト開催
	12月	警察庁から全国読売防犯協力会に感謝状
2006年	6月	「保護者のための防犯セミナー」をスタート
	8月	防犯リーフレットの発行部数が1億部を突破
	10月	46都道府県の警察と「防犯覚書」の締結を完了
2007年	1月	「名探偵コナン」とタイアップした防犯キャンペーンを開始
	1月	電話相談窓口「教師のための臨時ホットライン」を初めて開設
	7月	全国読売防犯協力会のウェブサイト「ぼうはん日本」を開設
2008年	6月	沖縄県警と防犯協定締結。これで47都道府県の警察と締結完了
	7月	沖縄県で初の防犯セミナー開催
	10月	防犯リーフレットの発行部数が1億6300万部を突破
	10月	北海道で初の防犯セミナー開催
2009年	3月	インターネットでの「体験型情報モラルセミナー」開催
	6月	教職員を対象とした「地域安全マップ講習会」を開催
2010年	2月	防犯セミナー開催が通算200回を突破
	7月	福岡県で初の防犯セミナー開催
2011年	3月	「ぼうはん日本」で東日本大震災に関連する防犯対策を呼びかけ
	6月	福島県飯館村に防犯ステッカー1700枚を寄贈
	12月	大阪で携帯電話やネットの危険性を学ぶ疑似体験セミナー開催
2012年	11月	高齢者を見守る活動の協定を各地で締結
	12月	防犯セミナー開催が年間100回を突破
2013年	4月	防犯セミナー講師に日本薬物対策協会が加わる
2014年	5月	「ぼうはん日本」リニューアル
	7月	全国読売防犯協力会10周年。記念誌「あしたへ」発行
	10月	Y Cの地域貢献活動を紹介する企画「安心も届けます」が読売新聞に掲載
2015年	3月	防犯セミナー講師らの意見交換会を開催
2016年	4月	東京読売防犯協力会が防犯ミニコミ紙「大江戸あんしんぶん」を発刊
2017年	2月	「お笑い防犯グランプリ」で防犯セミナー講師が優勝
2018年	4月	多摩読売防犯協力会が管内8市町村の新小学1年生全員に防犯ホイッスル4350個を贈呈
2019年	7月	設立15周年で警視庁生活安全部長から感謝状
	7月	15周年を記念する防犯ステッカー（バイク用・ヘルメット用）を作製
2020年	9月	第16回読売防犯川柳コンテストの応募が15,554点に
2021年	11月	福岡県読売防犯協力会筑豊建築支部が、地域の「女性と子どもの安全みまもり」で福岡県から表彰
2022年	10月	千葉県読売防犯協力会が、コロナ禍と台風被害で中止していた「千葉県読売防犯デーコンサート」を4年ぶりに開催
2023年	4月	防犯活動を含むY Cの地域貢献活動「あなたの街の読売センター運動」が始動
2024年	1月	「全国統一防犯パトロールデー」がスタート
	3月	東京都と覚書を締結し、Y Cの留学生スタッフによる子ども見守り活動がスタート
	5月	設立20周年で警視庁生活安全部長と東京防犯協会連合会会長連名の感謝状
	7月	全国読売防犯協力会20周年 警察庁から全国読売防犯協力会に感謝状



警視庁の佐野生活安全部長から感謝状が贈られた清水会長（右）

「設立20周年の節目に、全国の販売店の大きな励みになる。安全、安心の街づくりに向けて、気を引き締めて活動に取り組み、地域のお役に立てればと考えている」と応じた。

警視庁（同区）では5月31日、防犯功労表彰式が行われ、同庁生活安全部長と東京防犯協会連合会会長の連名による感謝状を贈られた。都内の防犯団体の代表らが出席した表彰式で清水会長が同庁の佐野裕子・生活安全部長から感謝状を手渡された。清水会長は「活動が評価され光栄。地域の安全、安心のための取り組みをさらに続けていきたい」と話していた。

Y防協はこれまで、警察庁からは05年12月に、警視庁からは設立15周年の19年7月にそれぞれ感謝状を贈られていた。

主な防犯活動 2024 (令和6年)

設立20周年にあたる2024年も、全国読売防犯協会(Y防協)は、「パトロール」「見守り」を軸に、さまざまな防犯活動に取り組んでいる。

年間活動テーマは「読売センターは、街に光を与え、安心もお届けします」とし、これを前面に出したYC店頭掲示用ポスターも作製した。

1月から集金時期にあたる毎月25日を「全国統一防犯パトロールデー」と定め、全国で活動を強化している(各地での取り組みは29〜30ページで紹介)。

東京本社管内では、統一デーでの実施状況などを、ウェブアンケート形式でYCから募る取り組みも始めた。集められた好事例は、事務局がまとめて担当社員へフィードバックし、他のY



2024年のY防協ポスター



第20回読売防犯川柳コンテストのポスター

Cも参考にできるようにしている。YCからは「防犯チラシの配布を強化した」「非現実者へも取り組みをPRできた」などの声が寄せられている。

「読売防犯川柳コンテスト」は、20回を記念した「特別賞」を設定した(19回までの入選作品は33〜36ページで紹介)。

活動時に携行し活用「防犯心得」を作製

Y防協事務局は、パトロールや見守り活動時にYCスタッフが携行できる「防犯心得」を作製した。

B5判で、それぞれの活動時に注意するポイントを簡潔にまとめている。東京本社管内は「H.E.M.S. (ハナビ)」から、大阪本社管内はYCネットからダウンロードできる。



Y防協事務局が作製した防犯心得

YCの活動を紹介 各地で20周年PR

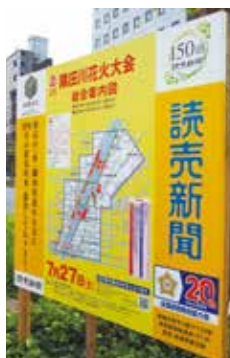
Y防協の長年の取り組みをアピールする活動も強化している。Y防協が運営するウェブサイト「ぼうはん日本」は、YCの活動内容の紹

介欄をさらに充実させるため、10月をめどに改修する(現行サイトの詳細は37ページで紹介)。

設立20周年ロゴを前面に出し、YCでの活動を紹介したPRチラシも作製した。7月27日に開かれた第47回隅田川花火大会(東京本社など協賛)では、浅草駅前と市民協賛席で約8500枚を配布、Y防協の活動を大きくPRした。会場周辺には、20周年ロゴが付いた交通規制案内看板も掲出した。



20周年をPRするチラシ



JR両国駅前に掲出された20周年ロゴ付きの交通規制案内看板



防犯ベストを着て浅草駅前ではチラシを配布するY防協事務局員

2014と2023年の防犯活動 成果相次ぐ人命救助

「覚書」規範にイベント展開

全国読売防犯協力会（Y防協）は発足後の10年間、全国の警察本部と防犯覚書の締結を進め、覚書を規範に「読売防犯川柳コンテスト」開催、自治体など主催の防犯イベント参加、防犯リーフレット作製・配布などに取り組んできました。各地の読売会や読売会支部と、自治体などとの高齢者見守りに関する協定締結も進めました。YCスタッフが配達や集金の際、新聞が数日分たまっていて、異変に気付いた場合、速やかに関係機関に連絡する体制を整えました。YCスタッフの機転による人命救助など、着々と成果を上げました。発足10年を経た2014年以降の主な防犯活動を年ごとに振り返ります。

※本文中の肩書、役職名・地区名・YC名などは当時のものです

主な防犯活動 2014（平成26年）

10年の足跡記念誌に シンポで意見を交換

全国読売防犯協力会（Y防協）は、設立10年を契機に、記念誌「あしたへ」を発行した（A4判 48ページ、オールカラー印刷）。

目玉企画は、10周年特別企画として開催された「防犯シンポジウム」の記録。シンポジウムでは元警察官僚、現役警視庁幹部、青少年非行などに詳しい大学の非常勤講師、地域で子どもの見守り活動などに取り組んでいるNPO代表など、防犯のプロたちが出席し、それぞれの立場から、防犯活動について、活発な意見が交わされた。

このほか、2004年から全国組織としての歩みを進めてきた足跡を簡潔

に紹介した年表をはじめ、広範にわたるY防協活動が一読で理解できる。

超高齢社会に突き進むことになる。今後は、地震や火事などの避難誘導を含めた防災活動も視野に入れる必要がある。そのためYCが「安全・安心」のサービス拠点として、一層地域になくてはならない存在になることが期待される。



発行されたY防協10周年記念誌

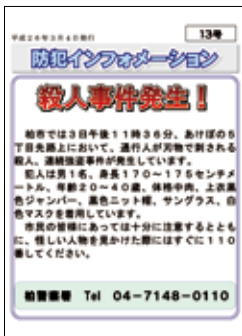
2人殺傷チラシ作製 要請前に13万3千枚

柏地区新聞販売組合

千葉県柏市で3月3日に起きた2人が死傷する連続通り魔事件で、柏地区新聞販売組合（永尾鎮機組合長）千葉北部地区・YC（柏東部所長）は、事件発生直後から迅速な対応で、周辺住民に注意を呼びかけるチラシ約13万3000枚を作製した。同市内の15YCをはじめ、他系統も加盟する同組合の44店が3月5日付朝刊に折り込んだ。

3日深夜の事件発生直後から永尾組合長は、犯人が逮捕されずに犯行が続いて被害が拡大することを何より恐れた。そのため、警察などからの要請前から、同組合は、同事件に関する情報を掲載したチラシで地域住民に注意喚起することを決め、柏署や柏市防災安全課などの関係機関と連絡を取り合いチラシ作製に着手した。

永尾組合長は、「柏地区新聞販売組合として、日頃から柏市や警察と連携しながら防犯活動などに取り組んで、信頼関係を築いていたからこそ、今回も系統を超えて迅速に対応することができた。今後も読売がリーダーシップを発揮し、地域社会に貢献していきたい」と話した。



地域住民に注意を呼びかけたチラシ

園児と「5つの約束」 誘拐防止へイベント

大阪・YC土師の里

大阪府藤井寺市市国府の市立道明寺東幼稚園で4月25日、防犯イベント（羽曳野警察署主催、YC土師の里、大阪読売防犯協力会など協力）が開催され、同幼稚園児と保護者ら計70人が参加した。

イベントでは、大阪府警察本部生活安全指導班による防犯セミナー（誘拐防止教室）が実施され、着ぐるみ人形を用いた寸劇や体操で「誘拐されないための5つの約束」を指導した。

地元乗馬クラブによるポニーの体験乗馬も行われ、園児らはセミナーで学んだ「5つの約束」が記載された「ポニー子ども安心騎馬隊員之証」を受けたほか、YC土師の里の前田尚之代表から防犯リーフレット、防犯ぬり絵、読売KODOMO新聞などの記念品を受け取り、大喜びだった。



体験乗馬を手伝うYC土師の里の前田代表とスタッフ

主な防犯活動 2015 (平成27年)

「防犯の街づくり」
県知事から感謝状

埼玉・YC熊谷西

埼玉県熊谷市のYC熊谷西(加藤昌義所長)は、同県の「防犯の街づくり」に積極的に協力。「届けます 地域の安全 ポストまで」をキャッチコピーに、2005年からスタッフ全員が朝夕刊配達時に防犯ベストを着用して配達業務に従事してきたこの活動に対し、「新聞屋さんがパトロールしてくれるので安心です」と市民から感謝の電話が同YCに寄せられ、同県知事からも1月20日に「防犯の街づくりに理解と熱意を持って取り組んだ」として感謝状を贈られた。

加藤所長は、「犯罪がなくなれば、地域の皆さんが安全で安心して暮らすことができる。防犯パトロールを続け、犯罪抑止のため協力を続けたい」と語った(彩の国だより(埼玉県広報紙3月号)から抜粋)。



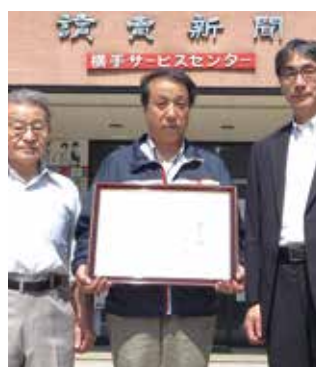
おそろいのベストを着用して業務に出る
YC熊谷西スタッフ

前日夕に車いす転倒
動けない女性を救助

秋田・YC横手

全国読売防犯協会(竹村章会長)は、秋田地区・YC横手(福井忠男所長)のスタッフ渋谷勇さんを表彰した。渋谷さんは5月12日午前7時頃、朝刊配達に訪れた秋田県横手市大町の読者宅の居間で倒れている女性を発見して119番通報、病院に同行して病状を説明した。

女性は足が悪く車いすを使用。渋谷さんは通常の配達終了後に女性宅を訪れて新聞を手渡ししていた。女性は前日夕に車いすごと転倒し、渋谷さんが来るまで動けなかった。軽い脳梗塞だったという。



表彰状を手にする渋谷さん(中央)と
福井所長(左)、秋田県読売会・福井淳会長

自分の防寒服かけ
高齢の女性助ける

栃木・YC足利中部

全国読売防犯協会は3月24日、栃木南部地区・YC足利中部(竹村章所長)のスタッフ大平雅彦さんに表彰状を贈った。大平さんは2月16日午前

4時50分頃、朝刊配達中に栃木県足利市江川町の住宅玄関先で、高齢女性が玄関ドアから体を出し頭から血を流し、意識なく倒れているのを見つけた通報した。

冷え込みが厳しかったため、大平さんは自分のダウンジャケットをかけ救急車を待った。女性は体温と意識が回復し、命を取りとめた。



表彰状を持つ大平さん(左)と
竹村所長

高齢者にスマホ講座
キャンセル待つ盛況

滋賀・YC6店企画

滋賀県草津市内を中心とするYC草津中央、東草津、栗東、守山西部など6店が企画した「スマホ講座」が8月20日、草津まちづくりセンターで開催された。

同講座は、従来型の携帯電話を持つ高齢の読者らからの「ラインで孫や家族とやり取りしたいが、スマホの操作が分からない」といった声を受け、4月からスタートした。

毎月ほぼ1回、NTTドコモなどの担当者招き、基本操作や文字入力などを指導している。
毎回、定員約20人にキャンセル待ち

が出るという。

5月からラインに公式アカウント「よみうりサポートクラブ」を開設。登録者には、県の「しらせる滋賀情報サービス」(しらしがメール)から、同県内のひたくり、架空請求詐欺事件などの防犯に役立つ情報を週3、4回届けるほか、映画招待券や読売旅行のツアー情報なども送っている。

ニセ電話気づかせ隊
YC従業員参加申請

福岡県読売防犯協会

福岡県読売防犯協会の西村眞津美会長が9月29日、福岡県警本部を訪れ、県警が推進する「ニセ電話気づかせ隊」への参加申込書(県内152店の従業員ら計約1700人分)を提出した。

「ニセ電話気づかせ隊」は、電話でだまされて多額の現金を支払おうとする高齢者への声かけや、啓発チラシの配布などを行う。9月25日現在で、663団体の約22万8800人が参加している。



「ニセ電話気づかせ隊」の参加申込書を
県警職員に手渡す西村会長(左)

主な防犯活動 2016 (平成28年)

「じもとの事件簿」に 県警から本部長褒賞 神奈川・相模地区5YC

神奈川県伊勢原市で防犯チラシ「じもとの事件簿」を共同で発行している相模地区の5YCに対し、神奈川県警察本部から4月13日、防犯功労団体への「本部長褒賞」が贈られた。

伊勢原市では2014年9月から、YC伊勢原中央、YC伊勢原西部、YC伊勢原、YC厚木愛甲、YC秦野東部の5YCが同チラシを毎月1回発行し、16年の部数は1万3000部に上った。伊勢原警察署の情報を基に、B4判の紙に空き巣や自転車盗難などの事件が発生した日付とエリアを掲載し、住民に注意を呼びかけている。

5YCを代表して、田中勝・伊勢原警察署長から記念の盾を受け取ったYC伊勢原西部の中村悟所長（相模読売会企画委員長）は「読者からも、『家の戸締まりに気をつけるようになった』などの声が寄せられている。これからも地域の役に立ちたい」と語った。



田中伊勢原警察署長（左）から
記念品を受け取った中村所長

65歳以上の高齢読者 異変あればすぐ連絡 千葉・YCゆりのき高津

千葉東部地区・YCゆりのき高津（館坂民和所長）は、65歳以上のお客様を対象に会員制で無料の安心安全見守りサービス「シルバーサポートクラブ」を提供している。

前日の新聞が会員の新聞受けに残っていたら、指定の非常時連絡先へすぐに電話する。会員約100人で2010年4月に始め、16年には約500人に達した。この間、お客様の命を救ったことも4件あり、14年7月には、千葉県の八千代市社会福祉協議会から感謝状も贈られた。安否確認だけでなく、高齢のお客様の生活もサポートする。電球の交換、ゴミ出しなど、簡単な作業は無料、手間のかかる芝刈りなどは有料で請け負う。



見守りサービス活動について話し合う館坂所長（左）

大江戸あんしんぶん 毎月73万部作り分け 東京連合読売会

4月に東京本社販売局販売第二部管内の全YCでスタートした「よみうり大江戸あんしんぶん」は、毎月第3金曜に計73万部発行され、地域に合わせた身近な情報を伝えるため、「目黒・世田谷区版」「中野・杉並・渋谷区版」など、エリアごとに11種類の紙面を作り分けている。

同紙の創刊にあたっては、東京連合読売会内の企画委員会が中心となつて、警視庁や東京消防庁などと協力態勢を整えてきた。

創刊に携わった玉川読売会の柴田秀昭会長は「様々なデータや事例の紹介にとどまらず、私たちの安全を守るために頑張る人の顔も見える紙面を作ること、読者に防災・防犯意識とともに、人のぬくもりや安心感も抱いていただけるようにしていきたい」と話している。



好評の「よみうり大江戸あんしんぶん」

東部地区・YC東小松川（佐藤洋介所長）では、管内の自治会副会長から「よく発行してくれた。自治会ではできないことなので、これからも頑張つて」と激励を受けた。

「ひったくり防ごう」 カバー無料取り付け 大阪・YC瓢箪山

大阪府下中部支部のYC瓢箪山（鈴木訓司代表）は4月24日、大阪府警枚岡警察署などと大阪府東大阪市神田町の神田広場で「防犯フェス in 枚岡」を開催した。

同フェスティバルは、同府警が推進している春の地域安全運動に合わせて実施されたもので、式典に続いて白バイパトカーの展示・写真撮影、ジャグリング、ひったくり防止カバーの無料取り付けなどが行われた。

鈴木代表は、ひったくり防止カバーの贈呈や当日のフェスティバルの様子を速報で伝える特別号外車を配置して、特別号外を発行するなど、参加した地域住民約800人に防犯を呼びかけた。



記念品を贈呈する鈴木代表（右）

主な防犯活動 2017 (平成29年)

配達中に火災発見し
独居高齢女性を救出

岩手・Y.C.宮古

岩手地区・Y.C.宮古（佐々木敏夫所長）のスタッフ、小成義朗さんは3月1日、岩手県宮古市で発生した火災で住宅内にいた高齢女性を助けたとして宮古地区広域行政組合消防本部から感謝状を受けた。また、全国読売防犯協会（Y防協、会長＝竹村章読売東京七代会長）からも人命救助の表彰を受けた。

小成さんは1月10日、朝刊配達中の午前3時頃、住宅の外壁が燃えているのを発見し、119番通報するとともに住宅内で寝ていた二人暮らしの94歳の女性を助け出した。さらに住民と協力、消火活動に当たった。その結果、女性は無事で、火災も外壁の一部を焼いただけで済んだ。

小成さんは「助けなきゃという一心で、やらなければいけないことをやっただけ」と話していた。



川田幸雄販売局長(左)、小山田憲司販売第八部長(右)と並び消防本部の感謝状を持つ小成さん(左から2人目)と佐々木所長(左から3人目)

佐々木所長は「日頃から地域の見守り役として、従業員にはお年寄りのお宅をはじめ注意するよう呼びかけている。それが実を結んだ」と話した。

連れ去り防止塗り絵
小学校へ寄贈100万枚
近畿の読売防犯協会

兵庫県警生活安全企画課や兵庫読売防犯協会などによる防犯教室が10月30日、同県尼崎市立難波小で開かれ、1年生約85人が、不審者への対応方法などについて学んだ。

Y.C.でつくる同協会の地域貢献活動の一環で、教室には犯罪ゼロを目指す、大阪のご当地ヒーロー「地球戦士ゼロス」が登場。「お菓子をあげるよ」などと言って近寄り、子どもを連れ去ろうとする悪役を退治する寸劇を披露し、「知らない人に声をかけられてもついていか



石川副会長(右)から塗り絵をプレゼントされる児童(尼崎市で)

ないで」と呼びかけた。

最後に同協会の石川清美副会長が、不審者から子どもが逃げる様子が描かれた塗り絵をプレゼント。2013年から近畿各地の読売防犯協会が小学校などで配っており、この日で100万枚を突破した。

車内の動けない男性
集金先で見つけ救助

鹿児島・Y.C.加世田

鹿児島県南さつま市のY.C.加世田の江口文雄所長は2016年9月29日、読者宅に集金に伺った時、自家用車が斜めに止めてあり、おかしいと思って車内をのぞいたところ、男性が動けなくなっていた。自宅まで運び込み、救急車を手配した。

幸いにも発見が早く、手当てをうけることができたので、男性は後遺症も残らなかった。

お手柄の江口所長には西部管内読売防犯協会（西村眞津美会長）からの表彰状と記念品が17年7月13日、上妻通男鹿児島県読売防犯協会会長より贈られた。



表彰状を手にする江口所長(右)と上妻会長

新入学児の安全願い
防犯ブザー寄贈13年
山口・下関市彦島地区Y.C.

入学を控えた新小学1年生の安全に役立ててもらおうと、山口県下関市彦島地区のY.C.が13年前から、同地区の5小学校に防犯ブザーを寄贈している。2017年は3月31日、計175個を贈った。

Y.C.姫ノ水の中田稔所長によると、「古紙回収の収益で何か地域に貢献できることを」と考え、子どもたちが安全に通学できるよう、防犯ブザーを購入することにした。当初は3Y.C.が、その後、Y.C.の統廃合もあり、17年は同店とY.C.彦島（河村真吾所長）の2店が協力して、防犯ブザーを購入した。

「少子化で当初に比べると、新1年生は100人ほど減っています。一歩少ない小学校は17人でした。しっかりと定着している活動なので子どもたちのために、今後も続けます」と中田所長は話している。



子どもたちの安全を考える中田所長

主な防犯活動 2018 (平成30年)

詐欺被害未然に防ぐ チラシに県警感謝状

千葉県読売防犯協会の

振り込め詐欺被害の防止や交通安全を訴えるチラシの折り込みが評価され、千葉県読売防犯協会（佐藤政敏会長）が千葉県警から感謝状を贈られた。

同協会は、県内で振り込め詐欺の被害が相次ぐ状況を受けて「県警からのお知らせ」チラシや各警察署で作製した振り込め詐欺被害防止チラシなどを折り込み、被害の未然防止を図った。

贈呈式は6月7日に千葉市の県警本部で行われ、佐藤会長が県警の延澤加壽雄生活安全部長から感謝状を受け取った。企画開発担当会長を務める石井啓仁京葉読売会会長も出席した。

延澤部長は「警察も検挙と防犯の両面で取り組んでいるが、未然防止では、YCの皆さんの協力が本当に心強い」と感謝の言葉を述べた。



感謝状を受け取る佐藤会長(右)

誘拐被害防止塗り絵 警察も活用し感謝状

大阪読売防犯協会の

大阪読売防犯協会（岩城保彦会長）は3月12日、地域防犯に貢献したとして大阪府警から感謝状を贈られた。

同会は子どもを対象にした誘拐防止教室を開いたり、「知らない人についていかない」など身を守るための約束ごとを紹介した塗り絵を作製したりして、防犯活動に取り組んできた。塗り絵は府警の防犯教室でも活用されているという。

この日、府警本部で開かれた贈呈式には、岩城会長らが出席、内山直治府民安全対策課長から感謝状を受け取った。岩城会長は「防犯活動に一層力を入れるとともに、朝夕刊の配達でもしつかりアンテナを張り、安全な街づくりに貢献していきたい」と話した。



内山課長から感謝状を贈られる岩城会長
(左=府警本部で)

二七電話詐欺を防止 折り込みに知事表彰

福岡・YC別府田島

福岡市城南区のYC別府田島（横山順一所長）に5月30日、小川洋福岡県知事から表彰状が贈られた。「二七電話気づかせ隊」として、「よみうり城南防犯だより」の発行を通じ、二七電話詐欺の被害防止に大きく貢献したことが評価された。

福岡県合同庁舎で行われた表彰式で小川知事から表彰状を手渡された横山所長は、「お客様が被害に遭わないようにとの思いを込めて、4年間毎月『防犯だより』を発行してきました。お役に立ててうれしいです」と語る。

この「防犯だより」は福岡県警早良警察署から送られてくるデータを基に、様々な防犯情報や、同県警OBからのアドバイス「一言助言」などを掲載、新聞に折り込んでいる。「協力・早良警察署」と大きく書かれており、警察と連携していることが、お客様に安心感を与えているようだ。



表彰状を手にする横山所長

薬物の危険性学ぼう 児童50人にセミナー

鹿児島・霧島市

鹿児島県霧島市の横川小学校の5・6年生約50人を対象に10月24日、防犯セミナー（全国読売防犯協会後援）が開かれた。講師を務めた深川猛さんは、霧島署の平松飛鳥巡査長と共に「薬物の真実を知ろう」と題して、児童たちに薬物の危険性を訴えた。写真。



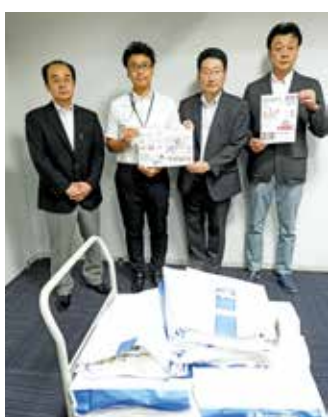
主な防犯活動 2019(令和元年)

夏休み子ども守ろう 110校にリーフレット

多摩北部読売会

多摩北部読売会(矢野隆正会長)は、夏休みを控えた東京都青梅市、昭島市など管内8市2町の小・中学校110校に、防犯リーフレット「子どもを守る安全対策」自分の身は自分で守ろう」を計4万5300部寄贈した。Y防協が、警察庁・警視庁などと協力、日本PTA全国協議会の後援を得て発行しているカラー刷り二つ折り4ページB5判のパンフレットで、危険な目にあいそうになったら大声を出すなど危険を避ける心構えをイラスト付きで説明している。YCが「こども110番の店」として活動していることなど、地域の防犯活動の中核となっていることもPRしている。

青梅市の岡田芳典教育長は「夏休みも事故がないように活用したい」と笑顔で受け取り、7月19日の終業式までに各学校に送られた。



防犯リーフレットを手にするYC所長ら

地域見守り活動協力 パトロール隊出陣式

台東区新聞販売同業組合

東京都台東区内の新聞販売店で組織する台東区新聞販売同業組合(橋本聖志組合長・中央地区・YC浅草橋所長)は10月11日、全国地域安全運動(10月11日〜20日)の初日に「たいとう安全・安心パトロール協力隊」の出陣式を同区内の田下谷小学校校庭で行った。

初開催となった出陣式は、区内のさらなる地域見守り活動強化と地域社会の安心安全への意識向上を目的に上野・下谷・浅草・蔵前の区内4警察署と同区新聞販売同業組合が主催、警視庁生活安全全部、Y防協の協力で行われた。

協力隊は読売、朝日、毎日、日本経済、産経、東京の6系統の新聞販売店のスタッフで構成され、同区新聞販売同業組合と台東区、4警察署で2009年に安全安心



出陣式に参加した台東区新聞販売同業組合のスタッフら

協定締結以来、防犯パトロールを行っている。日頃から配達途中での高齢者見守りや、尋常ではない子どもの泣き声を聞いた場合など速やかに警察署に通報する体制を築いている。

川に落ちた高齢男性 配達中に発見し救助

島根・YC松江南

松江市のYC松江南(持田宏宜代表)のアルバイトで、同市西津田、中島浩一さんは新聞の配達中に川に落ちた高齢者に気づき、救助した。

中島さんは9月19日午前5時50分頃、同市東津田町の天神川沿いを通りかかった際、水深約1メートルの川の中に、男性(80)が胸まで水につかっていることに気づいた。動けない様子だったため、棒をつかませ岸付近まで引っ張り、両手をつかんで引き上げた。男性が震えていたため、近くの家から毛布を借り、体をさすって救急車が来るのを待った。



男性を引き上げた時の様子を語る中島さん(松江市で)

新聞たまっている! 自治体に連絡し救助

福岡Y防協県から表彰

一人暮らしの高齢者の見守りに貢献したとして、福岡県は2月5日、県内の7団体・事業者を表彰した。

このうち福岡県読売防犯協力会(福岡Y防協)は、新聞が郵便受けにたまっていたのを不審に思った配達員が自治体に通報し、人命救助につながった点などが評価された。

県庁で開かれた表彰式では、小川洋知事が各団体の代表に表彰状を手渡した。西部管内Y防協の西村眞津美会長は「毎日、新聞を配達しているからこそ異変に気づくことができる。活動が認められてうれしい」と話していた。



小川知事と表彰状を手にする西村会長(左)

主な防犯活動 2020 (令和2年)

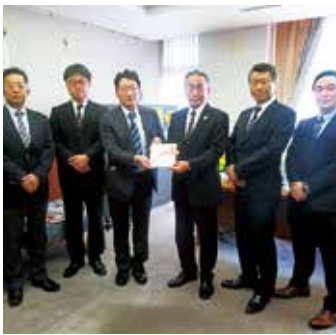
管内新1年生全員に 防犯ブザーなど寄贈 多摩読売防犯協力会

多摩読売防犯協力会（八杵秀雄会長）は、管内の7市町村の小学校に通う新1年生全員にY防協のマスコット「ボーケンくん」が描かれた防犯ホイッスルや防犯ブザーなど計3770個を贈った。

東京都あきる野市には、660個を贈呈した。同市教育委員会で3月12日に行われた贈呈式には、多摩北部地区からYC五日市の野原良康所長、YCあきる野の千賀康史所長、YC秋川の佐々木伸所長、YC福生の酒井正吾所長、販売第二部同地区の谷田部大地担当社員が出席し、野原所長が私市豊教育長に目録を手渡した。

私市教育長は「児童たちが安全に通学できる環境づくりに努めています。が、本年も寄贈していただきありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。

一方、野原所長は「少しでも子どもたちの役に立てばうれしい」と話した。



目録を手渡し、記念撮影する(右から)谷田部担当、佐々木所長、私市教育長、野原所長、千賀所長、酒井所長

はだしの女性路上に 配達中に発見し救助 栃木・YC葛生

未明の路上に軽装で立っていた高齢女性を助けたとして、栃木地区・YC葛生（柳澤昌志所長）のスタッフ・片山幸子さんが2月28日、栃木県警佐野署から感謝状を受けた。

片山さんは新聞配達中の2月1日午前3時頃、犬を抱えた80歳代女性を発見。薄着ではだしだったため、青木良太店長へ報告し、青木店長が女性を迎えに行き、同署員に引き渡した。女性は一人暮らしだったが、無事、親族の元へ戻ったという。

同署の高山寛之生活安全課長が28日、YC葛生を訪れて感謝状を渡した。片山さんは「新聞配達をして20年になるが初めての経験。無事でよかった」と、当時を振り返った。高山課長は「通報が遅れると命にかかわりかねない。地域の協力で早期発見に至り、大変ありがたい」と話していた。



感謝状を渡された片山さん(右)

集金で異変に気付く 男性救助に知事賞状 兵庫・YC丹波篠山

読者の人命救助に貢献したとして、兵庫県丹波篠山市のYC丹波篠山（田中英輝代表）の社員、松尾紳司さんに善行をたたえる知事の「のじぎく賞」が贈られた。8月7日に二人暮らしの高齢男性宅に集金に訪れた際、新聞が3日分たまっており、駐車場に男性の車があるのに呼び鈴や声掛け、電話にも応じなかったことから、兵庫県警篠山署に通報した。室内で倒れていた男性は救助され、ドクターヘリで丹波市内の病院に搬送され快方に向かった。

篠山署で森江満署長から賞状を手渡された松尾さんは、「今後も読者とのコミュニケーションを大事にし、地域の安全に役立ちたい」と語った。



森江署長(左)から「のじぎく賞」を手渡された松尾さん(篠山署で)

YCに駆け込み男児 家に送り届け感謝状 奈良・YC大和高田

自宅に帰れなくなった小学生を保護し、車で送り届けたとして奈良県警高田署は2月18日、YC大和高田（久松武嗣代表）店長の細田陽人さんに感謝状を贈った。

同署の発表によると、大阪府の少年サッカーチームが1月18日、奈良県大和高田市総合公園グラウンドで試合を行った。監督やチームメイトは午後1時過ぎにチームのバスで帰ったが、大阪府大阪狭山市の小学3年男児は、父親が車で迎えに来ると勘違いして、一人で公園に残った。夕刻になっても迎えに来ないことから午後5時30分頃、公園そばの同YCに助けを求めて駆け込んだという。

夕刊の配達を終えて店にいた細田さんは、男児から自宅の場所など事情を聞き取り、マイカーで送り届けた。上土居能一署長から感謝状を受け取った細田さんは「真冬に短パン姿でさぞ心細かっただろう。疲れからか車に乗るとすぐに眠っていた」と振り返っていた。



上土居署長から感謝状を受け取る細田さん(右、大和高田市で)

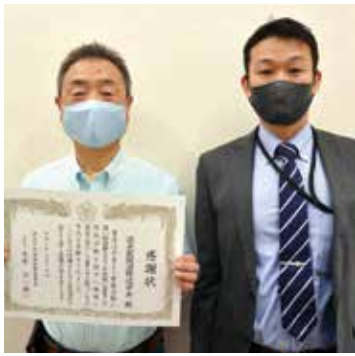
主な防犯活動 2021 (令和3年)

「じもとの事件簿」
安全に貢献と感謝状
相模原・中央区内10 YC

新聞折り込みの防犯ミニコミ紙で安全な街づくりに貢献したとして、神奈川県警相模原署は、相模原市中央区のYC淵野辺中央の佐藤日出雄所長に感謝状を贈った。

佐藤所長は2014年6月から毎月1回、相模原署の情報提供を受けて「新聞には載らないじもとの事件簿」を発行。空き巣、車上狙いなどの発生情報のほか、交通安全や、「特殊詐欺に遭わないよう常に留守番電話設定を」といった防犯のアドバイスやB4判1枚の両面に掲載している。折り込みは、淵野辺中央を含めて区内のYC10店が行い、計約3万5000世帯に届けている。

佐藤所長は「防犯意識が高まり、自転車盗などは以前より減った」と手応えを感じている。署長代理として感謝状を届けた高久俊之生活安全担当次長は「地域と警察の架け橋になっていただき、ありがたい」と、7年間の活動に感謝した。



高久次長(右)から受け取った感謝状を掲げる佐藤所長(左)

島根の高齢男性救出
国際会議で紙面掲示

「京都コンGRES」会議

京都市の国立京都国際会館で3月に開催された第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンGRES)で、全国読売防犯協力会の活動が展示紹介された。その中で、島根県のYC松江南(持田宏宜代表)のスタッフ中島浩一さんが見守り活動で高齢者を救ったことが取り上げられた。コンGRESとは5年に1度開催される犯罪防止・刑事司法分野における国連最大の国際会議で、2021年は3月7日から12日まで開かれた。

中島さんは、朝刊配達中に川に落ちた高齢男性を救助したことを読売新聞島根県版で紹介され、その掲載記事が今回会場で展示された。

持田代表は「中島さんは仕事熱心で、見守り活動にも取り組んでいたことが感謝しています。これからもYCとして地域の見守り活動に取り組んでいきたい」と話していた。

小4 女兒不明18年
チラシ6万2千部

大阪・泉州30 YC

大阪府熊取町で2003年5月、小学4年生だった吉川友梨さんが下校中に行方不明になって18年となる5月20日に、泉州地区にある30 YCは情報提供を呼びかけるチラシを朝刊

に折り込み、計6万2000部を二斉に配布した。

事件発生現場に近いYC熊取・東佐野には、折り込みに先立つ5月17日、府警捜査第一課の捜査員らが、3800部のチラシを持ち込み、協力への感謝を述べた。大阪読売防犯協力会の副会長でもある出射健二郎代表は、「風化させないことが大事だ」と思っている。情報提供につながることで、どんなことでもお手伝いさせていたきたい」と力を込めていた。

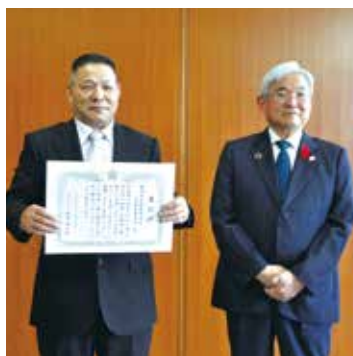


府警本部の捜査員からチラシを受け取る出射副会長(右、YC熊取・東佐野で)

女性と子どもの安全
見守り継続し表彰状
福岡Y防協・筑豊京築支部

2021年度の「女性と子どもの安全みまもり企業表彰」の表彰式が11月17日、福岡県庁で行われ、福岡県読売防犯協力会・筑豊京築支部(日掛誠支部長)に生嶋亮介副知事から表彰状が贈られた。

同支部は人命救助や広報協力、不審者の警察への通報など、支部をあげて、継続して取り組んでいることが高く評価された。表彰状を手にした日掛支部長は「これからも販売店



生嶋副知事から表彰状を贈られた日掛支部長(左)



川口副支部長のコメントはインターネット配信された

としてできる活動が続けたい」と語った。この表彰式に先立ち、10月2日には、オンラインで開催された「安全・安心まちづくり県民の集い ふくおか」の中で、川口俊行副支部長が受賞者を代表してコメントを述べ、インターネットで配信された。福岡県では10年から、女性と子どもを性犯罪から守るための企業による自主的な活動として、「女性と子どもの安全をみまもる企業運動」を推進しており、福岡県読売防犯協力会は12年から参加している。

主な防犯活動 2022(令和4年)

領収書にイラスト 詐欺防止で感謝状

埼玉県西部・所沢支部

特殊詐欺防止の啓発に協力したとして、埼玉県西部読売会（山本敬会長）の所沢支部と、秋草学園短期大学（埼玉県所沢市）は3月16日、埼玉県警所沢署から感謝状が贈られた。

同支部では、約3万軒の購読者に発行する購読料の領収書の裏面に、詐欺被害防止を訴える標語とイラストを掲載。所沢市内のYCで21年7月から使い始め、被害者になることが多い高齢者を中心に注意を呼び掛けている。

イラストと標語は、同短大イラスト・ノベルズ部の学生11人が月ごとに作成している。

同署で赤星誠署長から感謝状を授与された山本会長は「地元の子生と連携して詐欺被害防止に貢献できてよかった」と述べ、同部部長の小林海月さん（20）は、「自分たちのイラストや標語が社会の役に立ててうれし」と笑顔で話した。



所沢署から感謝状を贈られた埼玉県西部読売会所沢支部と秋草学園短期大学の学生ら



学生が作ったイラストと標語が記載された領収書の裏面

電話詐欺「撃退じゃー」 チラシに県警感謝状

山梨県読売防犯協会

電話詐欺の被害を防ぐため、防犯チラシを新聞に折り込んで配布したとして、山梨県読売防犯協会（一瀬敦会長）は3月10日、山梨県警から感謝状が贈られた。

「いざ、撃退じゃー」と軍配を振る戦国武将の武田信玄がデザインされたチラシでは、「電話でお金の話」それ疑うべし」「ATMで還付金」それ疑うべし」「オレだけど、携帯なくした」それ疑うべし」という、詐欺撃退三箇条を紹介。

同協力は2021年6月、このチラシ2万部を新聞に折り込んで各家庭に配布した。

県警によると、21年の電話詐欺被害件数は約60件、被害額は約1億5000万円だった。この日、感謝状を渡された一瀬会長は「読者が被害に遭うのを防ぐためにも続けていきたい」と話した。



感謝状を受け取る一瀬会長(左)

「セーフティ新聞」協力 子ども防犯意識向上

大阪府警から感謝状

子どもたちの防犯意識を高める「大阪府警子どもセーフティ新聞」の制作に協力したとして、大阪読売防犯協会（出射健一郎会長）は7月28日、大阪府警から感謝状を贈られた。新聞は10万部発行され、各教育委員会を通じて府内の小学4年生（約7万2000人）などに配られた。

新聞は、児童に防犯や交通安全の意識を高めてもらおうと府警が制作を企画し、同協会とヤマト運輸など2社が資金援助を申し出た。

贈呈式は大阪府警察コミュニケーションプラザ（大阪市北区）で行われ、同協会から出射会長（YC熊取・東佐野）が出席した。出射会長は「親子で一緒に読んで、安全について考えるきっかけにしてほしい」と話していた。



子どもセーフティ新聞

前日新聞残る配達先 倒れた独居男性救助

大阪・YC国分

自宅で倒れていた一人暮らしの高齢男性の救助に貢献したとして、YC国分（西田雅彦代表）は5月12日、大阪府柏原市から感謝状が贈られた。同YCの配達スタッフが2021年4月19日午前4時頃、この男性宅の新聞受けに前日の新聞が残っているのを発見。不審に思い新聞受けの隙間から中をのぞいたところ、男性が倒れているのが見え、すぐに消防署と警察署に通報、消防隊員が倒れていた男性を救助し救急搬送、半年後男性は無事退院した。

通報したベテランスタッフは、地域に密着した仕事ぶり、この男性読者が「新聞を一日も取り残さない」と分かっていただけが、救助につながった。柏原市長から感謝状を手渡された西田代表は、「スタッフも一層励んでくれることと思います」と話していた。



富宅正浩柏原市長から感謝状を受け取ったYC国分の西田代表(左)

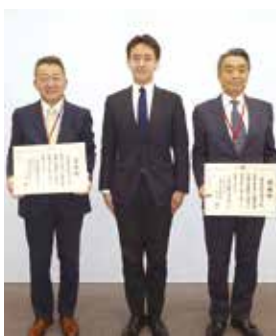
主な防犯活動 2023（令和5年）

2023年270 YCの活動 警視庁から感謝状

東京・多摩読売防犯協力会

警視庁は10月13日、東京読売防犯協力会（濱田克己会長）と多摩読売防犯協力会（八鍬秀雄会長）に日頃の防犯活動に対する感謝状を贈った。2003年に発足した両会には現在、東京都内計約270店のYCが参加しており、新聞配達時に地域の見守り活動をしたり、防犯を呼びかけるチラシを配布したりしている。

贈呈式は、読売新聞東京本社（東京都千代田区）で行われ、警視庁生活安全総務課の二宮健課長が両会長に感謝状を手渡した。式後、濱田会長は「約20年にわたって取り組んできた活動が評価されてうれしい」と語り、八鍬会長は「これからも地域の安全に貢献していきたい」と話した。



感謝状を手にする東京読売防犯協力会の濱田会長（右）と、多摩読売防犯協力会の八鍬会長（左）

配達時キーホルダー 身に付け防犯活動を

高知県警 YC に寄贈

高知県警は10月12日、高知読売防

犯協力会（尾崎知宏会長・YC高知西部）に、反射材付きの「ながら見守り」オリジナルキーホルダーを贈った。各YCを管轄する警察署長から「こども110番のくるま」に指定された新聞配達車両の出発式も行われた。

県警と同会は2005年、「防犯活動に関する協定書」を締結。今後は、県内全26 YCの配達スタッフらがキーホルダーを身に付け、日常業務の中で防犯活動を行う「ながら見守り」に取り組む。

贈呈式で、県警の北村昌巳生活安全部長からキーホルダーを手渡された尾崎会長は「安全安心な街づくりに貢献できるよう、日々業務を行ってきた活動の励みになる」と述べた。その後の出発式では、「こども110番のくるま」の標章を貼った車両3台が、県警本部を出発した。



尾崎会長（右）と北村生活安全部長（県警察本部で）

下校見守る青パト隊 不審車両も注意払う

山口・YC柳井

山口県柳井市のYC柳井（野口勇二所長）に防犯パトロール隊が発足した。

夕暮れ時に週3回程度、青パト（青色回転灯を装備した自動車）を運行し、下校中の児童や生徒の安全を見守っている。

野口所長は2021年3月に同YCで独立。通常の営業活動に加えて、地域防犯活動にも力を入れようと、青パト活動の導入を決めた。必要な講習を受け、山口県警柳井署から22年11月、防犯パトロール隊として委嘱を受けた。

児童や生徒の下校時間に通学路を巡回して安全を確保するほか、不審者や不審な車両発見にも注意を払う。

また、開業から4か月目にはミニコミ紙「やこい回覧板」を創刊し、以降は毎月25日に発行している。柳井署と連携して防犯上の注意点を掲載している。

読者との交流コーナー「柳井なんでも掲示板」も人気を集め、1月の大雪の際には、配達をねぎらう読者からの感謝がメールで寄せられたという。野口所長は「これからも様々なイベントや仕掛けを通して、YCの存在を地域の皆さんにアピールしたい」と意欲的だ。



YC柳井が導入した青パト

新聞配達や集金中の「ながら防犯」を表彰

福岡県読売防犯協力会

安全・安心なまちづくりに貢献したとして、福岡県内のYCでつくる福岡県読売防犯協力会（測正会長）が2024年1月、福岡県の「みんなで防犯応援隊表彰」を受けた。

同県は、日常生活に防犯の視点を取り入れる「ながら防犯」を推進し、模範となる活動を表彰している。防犯協力会は、新聞の配達や集金をしながら防犯活動に取り組む、人命救助につながっている点が評価された。

福岡市内で行われた表彰式には、同協力会の柿永征一郎副会長（YC福岡所長）、勝山克宣副会長（YC花畑やよい坂所長）、販売局管理開発部（当時）の久留文隆次郎が出席。県生活安全課の相野憲課長から表彰状を受け取った柿永副会長は「配達、集金、営業といった業務を通して地域の安全に貢献していきたい」と話した。



表彰状を手にする柿永副会長（右）

【OBの声】Y防協の歴史を語る

設立20周年となった全国読売防犯協力会。設立前年の2003年、読売新聞は紙面で「治安再生」の連載キャンペーンを展開しました。2002年版の犯罪白書で、刑法犯の認知件数が1996年以降6年連続して戦後ワースト記録を更新し、01年には約358万件に達した一方、刑法犯検挙率は戦後初めて20%を下回ったことが報じられたためでした。紙面の連載と連動する形でYCにも「防犯活動」への協力をお願いできないか、東京本社幹部から販売局に問い合わせがあったのが協力会設立のきっかけでした。YCによる防犯活動の組織立ち上げについての戸惑いや、活動を軌道に乗せるまでには思わぬ苦労もありました。



福田さん(右)

企業治安対策先駆け 官民一体協力へ展開

元警視庁生活安全総務課係長

福田 敬さん

貴協力会におかれましては、設立以来、全国の警察はもとより、自治体や学校、地域の皆様と緊密に連携され、自主防犯活動や子ども、女性、高齢者の見守り、さらには防犯チラシ

の折り込みなど多岐にわたり安全安心なまちづくりに継続的にご尽力され、心から敬意を表します。

その設立当時、私は警視庁生活安全総務課に在籍しておりました。当時の犯罪情勢は大変に厳しく、都内はもとより、全国的に侵入盗やひったくり等の犯罪が急増していました。都民・国民の体感治安を大きく悪化させており、早急な治安対策が求められていました。

そのような中、読売新聞東京本社から、YCが全国警察と連携して防犯活動に取り組むとの「神の声」を頂き、防犯協力会が設立されました。貴協力会の設立とその活動は、企業における治安対策の先駆けであり、その後、多くの企業が治安対策に取り組みました。これをきっかけとして警察・自治体・企業そして地域住民による官民一体の治安対策が全国的に展開され、侵入盗やひったくり等の身近な犯罪を減少させるなど、大きく貢献されました。衷心より感謝と御礼を申し上げます。

最近の犯罪情勢は、後を絶たない

特殊詐欺や「匿名・流動型犯罪グループ」による組織的な犯罪が増加しておりますが、貴協力会には、今後とも全国警察への継続的なご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、全国読売防犯協力会のますますのご発展と皆様のご多幸を祈念いたします。



まず警視庁に相談 良き縁と恩に感謝

元販売企画調査部長

岩崎 智彌さん

読売新聞は2003年2月から年末にかけ、社会の安全・安心をテーマにした企画「治安再生」を、1面、社会面、地方版で長期連載しました。「検挙に勝る防犯なし」が基本姿勢だった日本警察が「検挙の前に犯罪抑止を」と大きくかじを切った頃のことです。

「この機に全国のYCにも防犯活動をお願いできないか」。そんなつぶやきが本社首脳から発せられ、販売企画調査部次長だった筆者がお膳立てを仰せつかったのですが……。

「いったいどうしたら?」。頭を抱

えました。「とにかく動くしかない」と、警視庁に足を運び、防犯活動普及担当の梨本誠理事官(後に光が丘署長)に飛び込み営業ならぬ飛び込み相談。恐る恐る名刺を出したら、「新聞販売店が防犯活動。いいですね! どんどんやってください」と力強いお言葉。「防犯協力会」という名称を提案くださったうえ、警察のシンボル「旭日章」の中央にYCロゴを入れるデザインまでOK! これぞ良き縁、深きご恩。

このとき梨本さんから紹介いただいたのが、懐刀とも言うべき生活安全総務課の福田敬係長(後に大塚署長)。以後、長きにわたり、防犯協力会の指南役としてご指導を仰ぐことになりました。

さあ今度はお店に協力をお願いする番です。「勝手に話を進めてしまったが大丈夫だろうか」。胃に穴が開く思いをしつつ、担当社員経由で東京読売会(当時、現・東京連合読売会)と多摩連合読売会に協力会結成を提案したところ、驚くほど短期間にお店の意見集約がなされ、「賛成」の決定を頂きました。ここでもご縁とご恩に感謝、感謝です。

同年7月、東京読売防犯協力会と多摩読売防犯協力会が誕生。石川招、板花三義両連合会長が、警視庁で人見信男副総監とがっちり握手!

その後、全国道府県警との協定がトントン拍子に進んだのは、販売企画調査部の加藤竜一君(現・販売三部次長)、協力会初代事務局長の遠

藤秀夫さん、初代参与の渡邊貞治さん（元警視庁刑事指導官）、2代目参与の更江篤さん（元原宿署副署長）はじめ全関係者の努力の成果です。

1年後の04年7月、めでたく「全国読売防犯協会」が発足しました。初代会長には八木高夫・読売七代会（当時、現・読売東京七代会）会長が就任。先頭に立って熱心に後押ししてくださったのも懐かしい思い出です。

その後の20年間に結ばれた全てのご縁とご恩に深く感謝いたします。



ネット普及で被害 パワポ活用し好評

元東京本社販売局参与
2011年退職・警視庁OB

更江 篤さん

私はY防協が発足した2年後の2006年4月に読売新聞東京本社に入社させていただき、Y防協の業務に従事しました。

当時を振り返りますと、東京本社管内のほとんどの地域に足を運び、当地の読売新聞の支局やYC、県警本部の方々にお会いしいろいろな異文化に接することができました。

防犯覚書、防犯セミナー、防犯リー

フレット、防犯川柳等々の業務に携わりましたが、とりわけ感慨深いのは防犯覚書と防犯セミナーです。

防犯覚書は、各都道府県読売防犯協会が当該都道府県警察本部の生活安全部門と連携を深め、パトローラーや防犯広報の協力など、地域の防犯活動を行うことを定めたものです。

当時、東京本社管内の防犯覚書は警視庁と栃木、静岡両県警としか締結されていなかったものですから、最優先課題として取り組み、締結終了まで約5か月間かかりました。

防犯セミナーは、入社後まもなく販売企画調査部長から講師陣の選定を指示されたもので、古巣の警視庁少年育成課の協力を得て警視庁OB・OGの警察官や少年補導員、インターネットの専門家を講師に選任することができました。

防犯セミナーは私が東京本社を退職した後も大幅に増加し、03年末で1900回を超え参加者も実に45万人を超えたそうです。

これもひとえに講師陣のご活躍はもとより、セミナー開催を支援していただいたYCの皆様のご理解があったからこそだと思います。

なかでも、腹話術人形を駆使して児童に直接、連れ去り被害防止を訴えるセミナーは、学校関係者から大好評で、毎年のようにセミナー開催の要請が多々ありました。

また、インターネットの普及により子どもたちが犯罪被害者となる事案が大きな社会問題となったことから、中・高校生を対象にパワーポイ

ントを活用したセミナーが好評を得ました。

私が特に印象に残った事案を記しましたが、今後とも事務局の皆様には、健康に留意の上、警察と連携し治安の維持に貢献されることを祈念して、お祝いのあいさつとさせていただきます。



体験型のセミナー 講師苦慮する姿も

元東京本社販売局参与
2013年退職・警視庁OB

柏田 榮文さん

私は、全国読売防犯協会が発足3年目の年に入社しました。先輩参与らが、苦勞を重ねられ47都道府県警察本部の生活安全部長と読売新聞社との防犯覚書締結式が終わった時期でもありました。おかげさまで読売新聞東京本社管内の県警察本部の生活安全部長へのあいさつ回りが楽しみの一つでもありました。

警察へのあいさつ回りは非常にスムーズでしたが、社内では当時の担当社員とYC所長から、「防犯セ

ミナー」が販売部数に直結するののか疑問視する方が多く、最初は防犯ボランティア活動の理解を得るのに苦勞

をしました。しかし、宮本販売局長からの大号令のおかげで防犯セミナーの開催がスムーズにいったことに大変感謝をしました。後に、この防犯活動が新聞購読料の軽減税率適用の活動の一翼を担うことになったことで、販売局長の先見の明に甚だ感服した次第です。

私の担当した防犯セミナーは、主に千葉県が中心でYC所長のご理解も進んでおり、遠くは銚子市をはじめ、各市の小・中学校とは打ち合わせとセミナー当日で2回はお邪魔をして忙しい思いをした記憶があります。

講師の先生方は、子どもの安全について腹話術や手品を交えて話し、かつその土地柄の話題も取り入れながら子どもたちを引きつけ、目を輝かせて聞き入っている子どもたちの姿を鮮明に覚えております。また、当時、「体験型防犯セミナー」と称して、実際に子どもたちに操作させながら携帯電話の安全な使い方のセミナーを開催しましたが、講師が時間配分に随分と苦慮されていたのを覚えています。

私の一番の思い出は、退職する年に、石川県和倉温泉の「加賀屋」で開催された正副会長会議に出席させていただいたことです。加賀屋は2024年の能登半島地震で大変、苦勞されています。そのようなこともあり、決して忘れられません。

結びになりますが、唯一無二の全国紙としての読売新聞社のますますのご発展と読売防犯協会の皆様方のご活躍を祈念しております。



Y防協活動きつかけ 協会が地域貢献大賞

初代事務局長

遠藤 秀夫さん

Y防協が全国組織となる前年の2003年、YCによる防犯活動組織が都道府県単位で発足しました。ただ当時のYC所長、スタッフの皆さまは、「防犯って何やるの?」との戸惑いや不安があったことと思います。そんな不安を解消すべく岩崎次長（販売企画調査部・当時）や関係者の方々が、「防犯活動手帳」などを作成してYCスタッフに防犯に関する心構え等を説いて、防犯活動のイロハを示しました。また、配達用バイクやヘルメットなどに貼る「防犯パトロール」のステッカー等を作製して防犯活動への意識づけを図っていました。

事務局では、05年に警視庁OBを参与に迎え、YCの活動を側面から支援しました。参与らは積極的に都道府県の警察本部に赴き、Y防協の活動をPRするとともに、警察署の防犯イベントや防犯セミナーなどで、YCを通じて防犯リーフレットを寄贈するなど協力体制を強化していききました。

一方、YCでは、ある所長は防犯情報を自店のミニコミ紙に掲載するため警察署を訪ねました。応対に出た生活安全課長がたまたま所長と同郷で話が弾み、防犯活動もスムーズに受け入れられたという出来事もありました。

またあるYCでは、店のスタッフがオレンジ色の防犯ベストをユニホームにして配達時には必ず着用していました。読者の方々から「読売さんが配達中にパトロールしてくれてありがたい」という声も多く寄せられ、実際にYCスタッフが配達や集金中に家の中で倒れている人を発見し救助した例は数多くありました。

このような活動を周知すべく、当時の宮本販売局長が、Y防協の防犯活動を日本新聞協会が主催する新聞協会賞に応募するよう発案したのです。日本新聞協会にはそれまで、新聞協会賞、同技術賞、同広告賞等はありませんでしたが、新聞販売店の活動を顕彰する制度はありませんでした。このY防協の防犯活動の応募をきっかけに、07年から地域に密着した新聞販売店の活動を奨励する「地域貢献大賞」が設けられたのです。

今では新聞各社の販売店が各地でさまざまな地域貢献活動を進めています。

Y防協はその活動のパイオニアとして、新聞販売網を維持しつつ地域に根付いた活動を継続していただけるようお願いいたします。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



求められる活動とは 何らかの「満足」提供

元事務局長

佐藤 大吉さん

時のたつのは早いものです。私が着任した頃のY防協は、まだ進むべき道を模索している最中という感じでした。人口減時代に突入し、超高齢化社会の夜明けを迎えており、「YCのできる地域貢献とは何ぞや」との課題に、課員全員がフリーズしていたような気がします。実は、この課題を解く方法は簡単です。奇をてらう必要などないのです。Y防協の進むべき道は、道に迷った人にとって的地までの道順を案内する時のような「親切な心、言葉、笑顔」で、手を差し伸べて補助する、そんな役割を果たすだけで十分だと、私は思いましたし、いまでもそう思っています。

しなやかに高所から低所に流れるように、方円の器に従うように、あたかも水であるかのような柔軟な思考の下に行動を起こすことはもちろん、一方では、時には厳しく自らを律すること。つまり、ルールを作り、それを順守することの大切さを内外

に広める役割を全うすることが、Y防協の活動の根幹である意識する日々を送っていました。そんな思いで、当時の先輩メンバーと酒を酌み交わした日が、いま原稿に向かいながら懐かしく思い出されます。みんな、元気にしているのかなあ。

時代はさらに高齢化が進み、人口減が続きます。そんな環境下で、YCの顧客獲得・維持競争は実に熾烈（しちりつ）を極めることになります。でも少し思いを巡らしてみてください。あなたの心を癒やしてくれるものが必ずあります。あなたの髪の毛のカットはいつも決まったお店のはず。コーヒーを飲む喫茶店もほぼ同じ店のはず。クルマ、バイクのガソリンをいれるお店も決まっています。その理由は――。それはあなたに何らかの「満足」が提供されているからです。防犯活動、さらには防災活動においても、Y防協はそんな役割を果たすことが望まれているのではないのでしょうか。

東海3県内の市区町村では、十数年前からライフライン業者との間で災害協定を締結しています。

そうした中、販売区域を隅々まで知り尽くしている新聞販売業者への期待がとても大きいことを、私たち新聞販売業者自身も肌身に感じなければならぬと思います。

ほら、あなたの耳に聞こえませんか?

「読売さん、おはよう! きょうもがんばってるな! ありがと(名古屋弁)――」



即効性はなくとも 継続で地域は信頼

元大阪本社販売局参与
2017年退職・大阪府警OB

池田 純さん

生活安全部門に長く携わった経験を生かせる職場として、2012年に読売新聞大阪本社に入社しました。当時の販売局長からは「YCの防犯活動は、まだ点の活動しかできていない。点を線でつなぎ、さらに面へと広げるように取り組んでほしい」という言葉をいただきました。

ただ実際に活動状況を確認すると、点の数自体、それほど多くはありませんでした。たしかに、YCにとって何らかのプラスがなければ、多忙な業務の合間を縫って防犯活動に協力しようとは思えないかもしれせん。警察自体、民間と協力することに前向きなところばかりではありません。警察と事業者が協力して地域の防犯に取り組む意義を説明し、両者をつなぐ催しをいろいろと計画しました。そうやって前向きになってくれたところから始め、実績を積み重ねていくことで、少しずつ点の数を増やしていくことに根気強く取り

組みました。

具体的には13年、「防犯ぬり絵」と「交通安全ぬり絵」を考案し、小学校の新入生に配ったり、防犯イベントで体験してもらったりする活動を始めました。「ぬり絵」には読売の名を入れ、YCが直接配れなくても、チラシを持ち帰ってもらった先で読売が防犯活動に取り組んでいることを知ってもらえるよう工夫しました。

15年からは大阪のご当地ヒーローと講師契約を結び、小学校や保育園などでヒーローショー仕立ての防犯教室を始めました。子どもたちが大喜びする姿に警察からの開催依頼も増え、協力してくださるYCも多くなってきました。さらにはYC自身が発信することも大切だと考え、地元警察署の出す防犯情報を掲載したミニコミ紙の発行も働きかけました。これらの活動の多くが今も続けられていることをうれしく思っています。今でも新聞が届くと、そうした防犯チラシが入っていないか、真っ先に探してしまうんです。

防犯活動は、漢方薬のようなものです。即効性はないけれども、長く続けることで地域からの信頼を得ることができ、それがお店の力になり、読売ファンを増やすことにつながっていきます。組織として防犯活動に取り組んでいる新聞社は読売だけです。素晴らしい取り組みを、これからも続けてほしいと願っています。



コロナで対面中止に 「紙」で注意呼びかけ

元大阪本社販売局参与
2022年退職・大阪府警OB

松本 久喜さん

2017年に読売新聞大阪本社に入社して感じたのは、YCの方々が防犯活動にとっても積極的だったことです。前任の池田さんが土壌を耕してくれたということもあったので、うが、各地区の会長さん方が率先し、多くのYCに手を広げやすくしてくださいました。様々な仕事がある中で、時間を割いて防犯活動に協力してくださるYCの皆さんに報いることができればと、私も該当の警察署に對し、感謝の気持ちを形にしてほしいとお願いました。

警察としても、通常は防犯啓発チラシであつても有料の折り込みを、無償で配っていただけるとは大変ありがたいことです。しかも非常に多くのご家庭に、一斉に戸別配達していただける。注意を呼びかけたい内容がタイムリーに、確実に地域の皆さまのお手元に届くので防犯効果も高く、どの署長さんも喜んで感謝状を出してくださったのは良かったなと

思っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大で自粛要請が出たときは、様々な計画が中止となってしまいました。防犯セミナーなどの対面活動はできませんでしたが、紡いできた警察との縁が切れないように、各署がリモートで行う防犯教室に防犯リーフレットや読売KODOMO新聞などを提供しました。さらに、その頃増えてきた特殊詐欺や窃盗事件について、各署に事例を聞いて注意を呼びかけるミニコミ紙を作製し、管内のYCに配布をお願いするというのもしました。

もう一つ力を入れたのは、高齢者の見守り活動です。認知症などで徘徊してしまう高齢者を、深夜や早朝に配達業務に携わるYCの配達スタッフの方が見つけてくださる可能性は大きいと思います。18年2月に大阪府と高齢者見守りに関する協定を結び、翌3月には「認知症サポーター」の養成講座も、本社で開催できました。泉州地域の方々が率先して取り組んでくださっていることを知り、当時の販売第一部次長に相談して実現したのですが、府内のYC代表ら160人に受講していただけたことがうれしかったです。

全国3本社が手を携えて20年間「防犯の読売」として活動を続けてこられたのは素晴らしいことです。これからも子どもや高齢者を見守る「目」を持ち続け、地域の安全・安心のために活動を続けていただきたいと思います。



配達で防犯に協力 「当たり前」のこと

元西部本社販売局社員
2021年退職

瓜生 真一さん

私は67歳で読売新聞西部本社を退職しましたが、そのサラリーマン人生の最後の12年間、Y防協の事務局の員として仕事をさせていただきました。東京本社、大阪本社と連携してYCの防犯の取り組みを進めていく、大変やりがいのある仕事でした。

担当となつて間もない頃に、ある警察の方から言われたことがあります。「新聞屋さんは深夜から電装看板をつけ、路地の隅々までバイクのライトで照らし朝刊を配ってくれる。それだけで立派な防犯活動ですよ」。販売店が新聞を配るのは当たり前なので、「なぜ、そう思うのですか」と聞いたら、「深夜、明かりがついて、作業している人がいる場所は、もしものときに駆け込める場所です。バイクの音やそのライトは物陰に潜む不審者にとってイヤなもので、犯罪の抑止力になります」とのことでした。

当たり前すぎて、防犯につながるなどとは考えたことがなかったので、「目からうろこ」でした。「防犯につながる」という「意識」を持つて業務に取り組むことの重要性を認識させられました。

思い出は多々ありますが、警察や自治体から人命救助などで表彰を受けたYCスタッフが異口同音に「当たり前のことをしただけ」と言う言葉が心に残っています。新聞がたまっている、部屋の照明がいたままになっている、そうしたお客さまの異変を感じ取り、それを所長に連絡し、所長が状況を判断して警察・自治体へ通報する。この連の流れが「当たり前のこと」として行われていることに、YCの力を感じます。

表彰には至らずとも、徘徊^{徘徊}していた高齢者を助けたといった善行は数多くあります。我々の耳に入っていないだけで、もっと多くの人助けが行われていると思います。「当たり前のことをしただけ」なのですから。

YCを取り巻く経営環境は厳しいものがありますが、その中で地域の安全と安心を守るY防協の活動は、今後ますます重要になってくると思います。こうした活動が全国規模で展開できるのは全国紙の中でも読売新聞だけです。西部本社規模は東京、大阪に比べれば小さいですが、オール読売の一員として大阪とがっちりスクラムを組んで、これからも九州・山口の防犯活動に取り組んでほしいと願っております。



元勤務地で防犯教室 顔見知り参加に感激

元西部本社販売局参事
2012年退職・福岡県警OB

高嶋 光生さん

Y防協の活動が20年という節目を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

私は2009年に福岡県警を退職し、3年間、西部本社でお世話になりました。当時の日記を見返してみると大変、懐かしく思います。

最初に会社近くの販売店に顔を出し、新聞配達の現状に触れ、認識を新たにすることから始めました。他紙にはなりますが、小学校6年の時に夕刊の配達をやり、中学の3年間は朝刊を配達した経験があったからです。

警察OBとして、まずは、コンプレックスに取り組みました。その後、東京本社で防犯教室の進め方などの研修を受けました。警視庁OBの更江篤さん、佐藤福次郎さん、柏田榮文さんら、東京本社の皆さんの指導を受け、福岡での防犯教室にも少しは自信を持てるようになりました。

初めての防犯教室は、かつて勤務したところのある福岡県の春日原警部交番の管内から始めました。最初だけに「ハラハラドキドキ」で、東京から更江さんに来ていただくことにしました。当然ではありませんが、地元の交番所長にも顔を出してもらうとともに、販売店の店長さんの協力もあり、無事に終了することができました。顔見知りの住民の方も参加してくれて、とてもうれしく思いました。

その後の筑豊地区での防犯教室には、宮崎県出身の柏田さんにも助け舟を出してもらい、充実した防犯教室になったことを懐かしく思い出します。日記には、福岡県内のみならず、九州・山口の各県警と連絡をとっていたことが書いてあり、忙しくとも充実した日々だったと記憶しています。

福岡県読売防犯協力会が今年1月に福岡県から「ながら防犯」で表彰を受けたと聞きました。在籍中に「防犯一口メモ」や「交通安全一口メモ」を定期的に発行していたこともあり、誠にうれしく思います。

75歳になりましたが、福岡県警南警察署時代にお世話になった福岡市南区の住民への恩返しのため、今後も「楽しめる公園」づくりのために働いております。新聞配達と同じく、「世のため 人のため」に取り組むY防協のますますのご活躍を祈っています。

私は、2019年1月にY防協事務局に着任し、23年1月までの4年間、お世話になりました。

着任してすぐ、小・中学校を中心に実施している防犯セミナーに参加しました。講師の熱のこもった講義に、目を輝かせながら聞き入る子どもたちの姿を、今でも鮮明に覚えています。防犯セミナーへの参加は、Y防協の防犯活動が社会的に大きな役割を担っていることを実感できる、貴重な体験となりました。

設立15周年を迎えた19年7月には、記念事業として配達に使うバイク・自転車用とヘルメット用の2種類の「防犯ステッカー」を作製しました。デザインの企画中にYC所長から、「見守り活動にも活用できるように、警察のシンボル『旭日章』にYCロゴがついたY防協マークでデザインしてほしい」と要望をいただきました。警察庁と協議を進めながら、「旭日章」の中央にYCロゴがついたY防協

元事務局長
2023年退職

コロナ禍「3密」避け リモートでセミナー



明平 一彦さん

マークのステッカーの完成にこぎつけました。

印象に残っているイベントは、19年10月に東京都台東区の旧下谷小学校校庭で開かれた「たいとう安全・安心パトロール協力隊出陣式」です。この協力隊は、地域見守り活動の強化を目的に同区、所轄の4警察署、同区新聞販売同業組合がタッグを組んだ新しい取り組みで、地域に精通した各系統の新聞販売店スタッフがパトロールを行い、行政・警察がこれをバックアップするものです。出陣式は、新聞販売店が地域の安心・安全に寄与していることをアピールする、インパクトのあるPRイベントとなりました。

コロナ禍の20年は、大人数が集まる防犯セミナーが一斉に中止・延期に追い込まれました。しかし、事務局や講師が知恵を出し合い、リモート方式での開催を企画。非接触で「3密」を避けられる、新しいスタイルのセミナーは、多くの主催者に受け入れられました。

在任中の4年間は、さまざまな体験をさせていただきましたが、いずれもYCが地域社会に深く根付き、貢献していることを実感できるものでした。20周年の節目を迎えたY防協の歩み、YCの不断の努力に、あらためて心から敬意を表します。Y防協が未来につながる活動を続けられますことを祈念しています。



2009年6月 読売防犯協力会の活動について
講演中の更江さん



2008年6月 Y防協と協力関係にあるNPO法人おやじ
日本の会議で発言する更江さん



2014年5月 防災シンポジウムで
講演する佐藤さん



2012年7月築地夏まつりでの
防犯イベントで来場客に対応する
遠藤さん(中央)



2012年7月マジックで防犯を
呼びかける池田さん

子どもを凶悪犯罪から守ろう…各地で防犯セミナー



東京都港区立御成門中学校で開かれたセーフティ教室(2023年4月)

2000年に入ると、子どもが被害者となる凶悪犯罪が各地で相次ぎました。こうした事態を受け、悲惨な事件を防ぐ一助になるようにと、全国読売防犯協力会は06年6月から防犯セミナーをサポートしています。

小、中学校での児童・生徒向け犯罪被害防止教室のほか、教師、地域ボランティアら大人を対象とするセミナーもあります。

現在活躍している東京本社管内のセミナーの講師を紹介します。

専門分野に精通、資格も…東京本社管内防犯セミナーの講師陣



とよだ ま ゆ み
樋田 麻由美 講師

**「薬物の真実知ろう」
少年健全育成に尽力**

日本薬物対策協会の代表であり、美容院を経営しながら防犯セミナー講師として、小学生から高校生までを対象に「薬物の真実を知ろう!」というテーマで、パワーあふれる講演をし、数多くの講演の要請を得ている。

また、講演のアンケート結果や実際の使用事例から薬物に手を染めさせないための話を交え、少年の健全育成にも尽力している。



おおつか たか ひろ
大塚 隆弘 講師

**「いかのおすし」普及
再講演の要請相次ぐ**

元警視庁警察官で、在任中、東京都教育庁と連れ去り被害防止のキーワード「いかのおすし」の普及に努めた。また、学生時代に始めたマジックを生かし、防犯セミナーでは「連れ去り被害防止」「非行防止」「特殊詐欺被害防止」のテーマで講演している。小学生から高齢者まで幅広い世代から再講演の要請が多く、好評を得ている。



いい むろ ま な み
飯室 眞奈美 講師

**腹話術生かす元警官
幅広い世代から人気**

元警視庁警察官で、社会福祉士、防犯設備士、防災士等様々な資格を取得している。療育センターなどで相談支援専門員を務めている他、パペットセラピー(腹話術)の技術を生かして「連れ去り被害防止」「非行防止」「保護者向けの子育て」「特殊詐欺被害防止等のセミナー」の講演を行うなど、小学生から高齢者までの広い世代で人気を集めている。

たけ だ たか ゆき
武田 貴行 講師

面白い腹話術駆使し 広い世代笑わせ講演

お笑い芸人として「腹話術師ポンちゃん一座」の芸名で浅草東洋館などに出演している。子どもからお年寄りまでの世代も笑える面白い腹話術を駆使し、「連れ去り被害防止」、「非行防止」、「特殊詐欺被害防止」のテーマで、小学校をはじめ、地域の防災セミナーでも講演を行っている。

は とう ゆう じ
羽藤 雄次 講師

劇団員の仲間3人と 「子どもの安全」を守る

制作集団・真夏座で俳優として活躍する傍ら、子どもの安全を守るため、東京都足立区教育委員会「子どもの安全・安心プロジェクト」のリーダーを務めている。
防犯セミナーでは、「連れ去り被害防止」、「非行防止」、「スマホ・ネットの安心・安全な使い方」、「薬物乱用防止」等幅広いテーマで、劇団員3人と共に講演している。

かん の やす ひこ
菅野 泰彦 講師

フィルタリング精通 好評「ネット注意点」

日本で初めてフィルタリングを開発した会社を定年退職後、これまでに得たコンピュータ関連の知識を生かし、防犯セミナー講師として活動している。「スマホやインターネットに絡む危険性や注意点、安心・安全な使い方」について、小学生・中学生・保護者などに講演をして好評を得ている。

あお き いさお
青木 勲 講師

「出会い系」被害防止 情報モラル呼びかけ

システムエンジニアの経験を生かし、ITベンチャー、エースチャイルド株式会社の広報として、SNSやスマホ、アプリなどで起きるいじめや出会い系などさまざまなトラブルによる被害から身を守るための啓発活動をしている。
現在は、各地の教育委員会や小学校、中学校等が主催する情報モラル講座を中心に「スマホ・ネットの安心・安全な使い方」のテーマで講演している。

むな かた み き
宗像 美樹 講師

薬物乱用の怖さ話す 「理解できた」と好評

子ども服のアパレルメーカー勤務を経て、子どもたちへ広がる薬物の影響について学んだ。日本薬物対策協会の専任講師並びに防犯セミナー講師として、主に中学校において「薬物乱用防止」の講演を行っている。多くの生徒から「よく理解できた」との声が上がっている。

にし たに まさ し
西谷 雅史 講師

子どもを明るく未来へ スマホの安全な使い方

ITのチカラで子どもの未来を作るエンジニア集団からスタートしたITベンチャー、エースチャイルド株式会社の代表取締役CEO。社員と共に小学校・中学校を中心に「スマホ・ネットの安心・安全な使い方」について講演し、子どもたちの未来を明るくする取り組みに貢献している。

毎月25日の全国統一防犯パトロールデー始まる

全国読売防犯協力会（清水和之会長）は2024年から、毎月25日を「全国統一防犯パトロールデー」と定め、各地のYCスタッフらが1月25日、担当地域で1回目の活動をした。同会設立20周年に合わせた取り組みで、全国のYCでスタッフらが配達、集金などの業務をしながら、住民らの見守り活動を行った。

東京本社

◆警視庁のアプリ活用

1月25日の最初のパトロールデーで、城北地区・YC大泉中央（梅内賢二所長）では、佐藤康二店長とスタッフ計11人が地域を回り、集金や営業の際、防犯チラシを読者らに直接手渡した。地元警察署の担当者からは、空き巣が昼間に発生することが多いため、「夕刊配達時に見守り活動を行う」と防犯効果が高い」と助言されているという。佐藤店長は「区域内には学校が4校あり、子どもが多いので事件や事故に巻き込まれないように見守



パトロールに向かうYC大泉中央のスタッフらと梅内所長（奥右）

りたい」と話した。

同地区のYC関町（高住昇所長）、YC保谷（同）などでは、所長、店長全員のスマートフォンに警視庁の防犯アプリ「デジポリス」をインストールしており、地域の犯罪発生状況を把握しながら防犯活動に励んでいる。

◆地域団体と連携し巡回

横浜北部地区・YC港北NTつづき（寺越満所長）では、パトロールデーに合わせて横浜市都筑区の北山田商業振興会のメンバーと合同で街頭の防犯パトロールをした。活動初日は午後5時半、青色防犯パトロール車2台も出動し、寺越所長やスタッフ5人を含む計13人で地区をパトロールした。通行人には特殊詐欺への注意を呼びかける防犯チラシを手渡し、声をかけながら街を歩いた。寺越所長は「地域住民との連携を強化し、安全と安心のために貢献したい」と話した。同YCは23年度の「あなたの街の読売センター運動」で安全安心の街づくり部門賞を受賞した。

◆活動報告し情報共有

各地のYCからは毎月、パトロールデーや日常の防犯活動の報告がY防協事務局に集まり、Han-navi（ハ



車に「防犯パトロール中」のプレートをつけて活動（札幌北地区・YC札幌元町）



防犯チラシを手渡す多摩東部地区・YC国分寺恋ヶ窪のスタッフ

ナビ）で情報共有している。

あるYCはパトロールデー前のミーティングで独り暮らしのお年寄りの宅の情報を配達スタッフで共有し、新聞がたまっているか、など自宅の変化を早めに報告するよう打ち合わせているという。「配達時あいさつ運動」として、出会った人に会釈やあいさつを心がけているという報告もあった。複数のYCのスタッフが夏場の訪問時、熱中症予防の声をかけていた。

小学校周辺や通学路での見守りや声かけ、地域の清掃活動をしている例もある。地元自治会と連携してお年寄りの見守りをしていると報告したYCもあった。

地元警察署が発行する防犯情報を掲載したチラシは多くのYCが折り込みや集金時の配布、ポスティングなどに協力している。

◆最新犯罪の注意喚起

Y防協事務局では、最初のパトロールデーに合わせて、「防犯パト

ロール中」のプレートを用意し、首から下げるストラップ用のデータをハナビなどで公開した。防犯チラシは、特殊詐欺への注意喚起を促す内容や、SNSでの投資に関する広告による詐欺、屋根工事などの悪質リフォーム業者による詐欺、24年7月の新紙幣発行に便乗した詐欺など、最新の犯罪状況に合わせて注意を呼び掛ける内容の清刷りを作成し、YCがいつでも使用できるようにハナビに掲載している。



読者向けに独自に作成した防犯チラシ「読売防犯だより」



雪の中でパトロールに出発する札幌北地区・YC西野のスタッフら

大阪本社

◆防犯チラシを手渡し

大阪本社管内でも、パトロールデーの初日、YCスタッフらが気を引き締めて防犯活動に取り組んだ。府下北部地区・YC高槻島本（青山勉代表）では全てのバイクにY防協事務局で作成した「防犯パトロール中」のプレートをつけて朝夕刊を配達した。集金初日でもあるこの日、近くの集合住宅の読者を訪ねたスタッフの山口善史さんが領収書と一緒に防犯チラシを手渡して「チラシを見て、気を付けてください」と声をかけると、読者からは「いつも見ているよ。ありがとうね」と返事があった。



パトロールに出発するYC高槻島本のスタッフら

◆新聞取り込みで安否確認

独り暮らしのお年寄りも多いことから、同YCでは登録制の見守りサービスもしている。配達した新聞が毎日取り込まれているかどうかを安否確認に活用し、新聞が郵便受けに残っている場合は登録先に連絡する仕組みで、高齢の親と離れて暮らす子どもの世帯に喜ばれており、現在までに登録は約50件に上っている。



読者に防犯を呼び掛けるYC高槻島本の山口さん

◆雪かきや登校時見守り

青山代表は、統一パトロールデーの設定によって、防犯協力活動をより強く意識することにつながると受け止めており、「防犯面で最も大切なのは日頃から住民に声を掛けることだと思う。これからも地域に密着した活動を続けたい」と話していた。

パトロールデー初日の活動として、滋賀北東地区・YC五個荘では、前日24日の大雪で積雪があったため、独り暮らしのお年寄りの自宅約10か所でポスト周辺の雪かきをした。また、小学生の登校時に地域住民と声掛けや見守りを実施。和歌山県の紀北地区・YC河北西・河北東では、地元の連合自治会やPTA組織「育友会」と合同で子どもらを指導する街頭啓発活動を始めた。

西部本社

◆「防犯意識高めたい」

福岡西南地区・YC原西部では取り組み初日の1月25日、測正所長が夕刊配達に向かうスタッフたちに「配達中は不審な点に気をつけてほしい」と改めて呼びかけた。

スタッフたちは「防犯パトロール中」のプレートを付けたバイクで配達し、地域の異変に気を付けながら回った。測正所長は「定期的なパトロールデーを生かして、スタッフの防犯意識を高めたい」と話した。



プレート付きバイクで配達に出かけるYC原西部のスタッフら

◆「安全見守り大作戦」

西部本社では23年から、各地の読売会の会議に警察本部から講師を招き防犯講演会を実施した。これを機に鹿児島県読売防犯協力会では24年4月、鹿児島県警から「春の子ども安全見守り大作戦」への協力依頼を受け、プレートを付けたバイクで配達などの業務中、子どもたちの安全確保のために目を光らせた。

◆夫婦で「青パト」巡回

山口東部地区のYC柳井・玖珂高森の野口勇一所長は、毎月25日の防犯パトロールデーや毎週金曜日の夕方、青色回転灯付きパトロール車（青パト）の助手席に妻・明子さんを乗せて小学校周辺を巡回している。

1人で帰宅する児童を見かけると、車を止め、「暗くならないうちに、早く帰るんだよ」と声をかけている。野口所長は「新聞配達には心くばり、気くばり、目くばり、手くばり」の仕事。地域の道を知り尽くしたYCは、住民の安全安心のお役に立てる存在です」と話している。

◆YC空港前が福岡県表彰

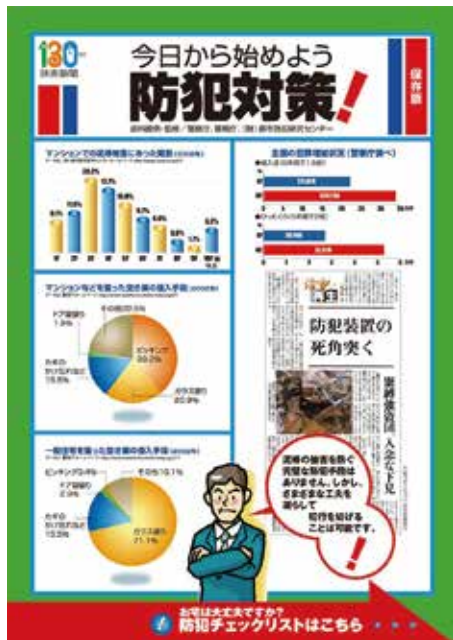
独り暮らしの高齢者らを見守る活動に尽力しているとして、福岡北東・YC空港前が24年3月、福岡県から表彰された。

スタッフらは配達先で新聞がたまっていたり、照明がついたままになっていたりするなどの異変を見つけた場合には、自治体や警察に通報する。22年、23年に計2人の人命救助につながった事例が評価された。表彰式で西村眞津美所長は「今後とも従業員や配達スタッフに周知徹底を図り、活動にまい進していきたい」と力を込めていた。



青パトのハンドルを握る野口所長（手前）と助手席の妻・明子さん

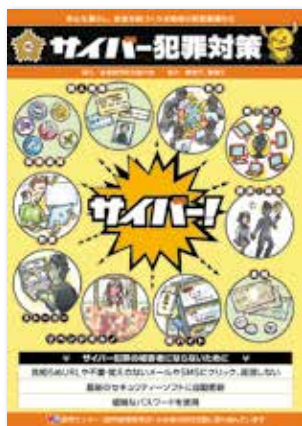
防犯リーフレット



第1号(2003年8月)

防犯リーフレットは犯罪被害に遭う人を減らしたいとの思いから、イラストを使って被害防止のポイントなどをテーマ別にとめた小冊子です。

2003年8月に第1号を発行しました。24年3月までに75号、累計部数はすでに2億8000万部を超えています。リーフレットは主に新聞に折り込んだり、集金時に手渡したりして配布しています。防犯イベントでも配布し、学校や警察から評価を得ています。



2022年11月
サイバー犯罪対策



2020年6月
薬物の真実を知ろう!



2018年3月
女性を守る安全対策



2014年9月
NO! 危険ドラッグ



2023年6月
侵入盗対策



2021年11月
特殊詐欺被害にあわないために



2018年6月
君たちも社会の一員だ



2016年3月
高齢者を守る安全対策

【 防犯リーフレット一覧 】

号	発行月	タイトル	製作数	号	発行月	タイトル	製作数
1	2003 年 8 月	今日から始めよう 防犯対策!	6,305,000	35	2010 年 3 月	子どもを守る安全対策	3,000,000
増刷	2003 年10月	今日から始めよう 防犯対策!	2,534,000	36	2010 年 6 月	女性のための防犯対策	3,345,000
2	2003 年 9 月	広がる「こども 110 番の家」の編	6,295,000	37	2010 年11月	STOP! どろぼう	3,080,000
3	2004 年 1 月	ひったくり こうして防ごう!	7,592,500	38	2011 年 3 月	家庭で教える防犯 & 交通安全	3,030,000
4	2004 年 4 月	「おれおれ詐欺」にご注意を	5,026,000	39	2011 年 6 月	だまされないで! 悪質商法・義援金詐欺	2,990,000
5	2004 年 6 月	気をつけよう自動車・バイク盗難	5,436,000	40	2011 年11月	NO! 薬物乱用	2,960,000
6	2004 年 8 月	民間防犯活動マニュアル	5,394,000	41	2012 年 3 月	家庭で学ぶ地域安全マップ & 交通安全	3,000,000
7	2004 年10月	だまされないで! 架空請求&オレオレ詐欺	5,762,000	42	2012 年 6 月	ケータイ・インターネット安全な使い方 4	3,030,000
8	2004 年12月	年末年始の防犯対策	5,704,000	43	2012 年11月	お年寄りを守ろう	2,910,000
9	2005 年 2 月	こどもを犯罪から守る	5,805,000	44	2013 年 3 月	子どもを守ろう!	2,950,000
10	2005 年 4 月	撃退! 悪質商法	5,725,000	45	2013 年 6 月	女性を守ろう!	2,860,000
11	2005 年 6 月	女性のための防犯自衛マニュアル	5,680,000	46	2013 年11月	振り込め詐欺対策を急ごう!	2,725,000
12	2005 年 8 月	なくそう! 青少年非行	4,717,000	47	2014 年 3 月	安心・安全なネットの使い方 5	2,740,000
臨時	2005 年 9 月	こどもを犯罪から守るダイジェスト版	1,163,000	48	2014 年 6 月	油断大敵 女性の防犯ABC	2,620,000
臨時	2005 年10月	こどもを犯罪から守るダイジェスト版	1,526,000	49	2014 年 9 月	NO! 危険ドラッグ	2,760,000
13	2005 年10月	防ごう! ネット犯罪	5,154,000	50	2015 年 3 月	防ごう! 特殊詐欺	2,450,000
14	2005 年12月	我が家と財産を守ろう!	4,740,000	51	2015 年 6 月	子どもの安全対策	2,460,000
15	2006 年 3 月	みんなで守ろう! こどもの安全	4,900,000	52	2015 年11月	住まいの安全対策	2,900,000
16	2006 年 4 月	振り込め詐欺 ちょっと待って!	4,888,000	53	2016 年 3 月	高齢者を守る安全対策	2,860,000
17	2006 年 6 月	親・保護者のための防犯活動ガイド	4,878,000	54	2016 年 6 月	NO! 薬物乱用 2	2,860,000
18	2006 年 8 月	家庭で教える子どもの安全	5,015,000	55	2016 年11月	安心・安全なネットの使い方 6	2,855,000
臨時	2006 年 9 月	みんなで守ろう! こどもの安全	3,785,000	56	2017 年 3 月	子どもを守る安全対策	2,835,000
19	2006 年10月	地域の安全を守ろう!	4,700,000	57	2017 年 6 月	ホットスポット・パトロール	2,750,000
20	2006 年12月	わが家の防犯強化対策!	4,640,000	58	2017 年11月	高齢者を守る安全対策 2	2,635,000
21	2007 年 2 月	STOP いじめ	4,390,000	59	2018 年 3 月	女性を守る安全対策	2,580,000
増刷	2007 年 3 月	STOP いじめ	30,000	60	2018 年 6 月	君たちも社会の一員だ	2,550,000
22	2007 年 3 月	子どもの【防犯・交通】安全対策	4,400,000	61	2018 年11月	オレオレ振り込め詐欺	2,340,000
23	2007 年 6 月	携帯電話 安全な使い方	4,300,000	62	2019 年 3 月	安心・安全なネットの使い方 7	2,410,000
増刷	2007 年 7 月	携帯電話 安全な使い方	150,000	63	2019 年 6 月	子どもを守る安全対策	2,351,960
24	2007 年 8 月	振り込め詐欺 & 悪質商法	4,140,000	64	2019 年11月	地域安全マップ 2	2,290,000
増刷	2007 年10月	保護者のための防犯活動ガイド	10,000	65	2020 年 3 月	住民力を高めよう 2	2,800,000
		地域の安全を守ろう!	10,000	66	2020 年 6 月	薬物の真実を知ろう!	2,240,000
25	2007 年10月	侵入盗対策	4,245,000	67	2020 年11月	高齢者を守る安全対策 3	2,220,000
26	2007 年12月	" お出かけ " 防犯対策	4,150,000	68	2021 年 3 月	安心・安全なネットの使い方 8	2,100,000
27	2008 年 2 月	ケータイ・インターネット安全な使い方 2	4,200,000	69	2021 年 6 月	少年を非行から守る安全対策	2,050,000
28	2008 年 3 月	親子でしっかり学ぼう 防犯 & 交通安全	4,120,000	70	2021 年11月	特殊詐欺被害にあわないために	2,010,000
29	2008 年 6 月	犯罪に強い女性になる!	3,915,000	71	2022 年 3 月	子どもを守る安全対策 4	1,970,000
30	2008 年 8 月	振り込め詐欺だましのテクニック	4,140,000	72	2022 年 6 月	あなたを守る安全対策	1,930,000
31	2008 年10月	ストップ!! 自殺	3,760,000	73	2022 年11月	サイバー犯罪対策	1,890,000
32	2009 年 3 月	子どもを守ろう! 防犯 & 交通安全	3,715,000	74	2023 年 3 月	安心・安全なネットの使い方 9	1,850,000
33	2009 年 6 月	ケータイ・インターネット安全な使い方 3	3,730,000	75	2023 年 6 月	侵入盗対策	1,830,000
34	2009 年11月	STOP! 振り込め詐欺・ひったくり・万引き	2,935,000	増刷	2024 年 3 月	子どもを守る安全対策 4	1,700,000

読売防犯川柳の足跡

五七五に乗せて防犯の知恵や心構えを伝える「読売防犯川柳コンテスト」は全国読売防犯協力の会の主催で実施する一大イベントです。2005年の第1回から今年で20回目の開催となります。17文字で表すユーモアと機知に富んだ作品は、油断は禁物であることを訴えかけています。募集区分に15歳未満（後の「チャレンジ部門」）を設けた13年以降、小中学生の視点から率直な思いを表現した作品が寄せられています。24年までに約42万9000作品が応募されました。

・・・第1回（2005年）・・・

■応募数：2万6625点

【天賞】

オレオレに日頃の疎遠を教えられ

・・・第2回（2006年）・・・

■応募数：1万7917点

【天賞】

オレオレに親子の絆試される

・・・第3回（2007年）・・・

■応募数：1万7868点

【天賞】

子どもからオレオレ電話試される

・・・第4回（2008年）・・・

■応募数：2万4173点

【天賞】

平成のキツネが騙す還付金

・・・第5回（2009年）・・・

■応募数：2万7399点

【最優秀賞】

本物の息子だろうが振り込まぬ

・・・第6回（2010年）・・・

■応募数：2万7753点

【最優秀賞】

虐待の親に聞かせる子守歌

・・・第8回（2012年）・・・

■応募数：2万4742点

【最優秀賞】

孤独死を救うひと声朝と夜

・・・第9回（2013年）・・・

■応募数：2万9971点

【最優秀賞】

オレオレに親子疎遠の虚を衝かれ

【優秀賞】

あいさが飛び交う街のセキュリティ

善悪をATMは理解せず

・・・第7回（2011年）・・・

■応募数：3万1180点

【最優秀賞】

ひと声が老いと孤独に灯をともし

・・・第10回（2014年）・・・

■応募数：3万5696点

【最優秀賞】

徘徊はいかいを散歩に変える地域の目

【優秀賞】

犯罪の感染源になるスマホ

法の目をくぐるハーブの恐ろしさ

・・・第11回（2015年）・・・

■応募数：2万8327点

【最優秀賞】

特殊詐欺次々作るミニドラマ

【優秀賞】

介護詐欺天使と悪魔使い分け

子の非行特効薬は親の愛

【チャレンジ部門・最優秀賞】

覚えよう！いかのおすしは身を守る

【チャレンジ部門・優秀賞】

悪の道断る勇氣身を守る

防犯はひとりひとりの心がけ

・・・第12回（2016年）・・・

■応募数：2万6489点

【最優秀賞】

目の前の危険をスマホは教えない

【優秀賞】

不用意なブログが事件引き起こし

【チャレンジ部門・最優秀賞】

体罰は見てもされても隠さない

【チャレンジ部門・優秀賞】

やさしさでそのはんごいはとめられる

防犯をきちんとやって身を守る

・・・第13回（2017年）・・・

■応募数：1万8290点

【最優秀賞】

防犯は家族全員責任者

【優秀賞】

ネットではどんな人にも化けられる

家族の和オレオレ詐欺を跳ね返す

【チャレンジ部門・最優秀賞】

スマホには思わぬ危険詰まってる

【チャレンジ部門・優秀賞】

いどう中！いかいオンでスマホオフ

助けて！心の叫び感じとれ

・・・第14回（2018年）・・・

■応募数：2万278点

【最優秀賞】

冷静になれば見抜ける特殊詐欺

【優秀賞】

留守電で振り込め詐欺にだまされず

いい話返事する前家族会

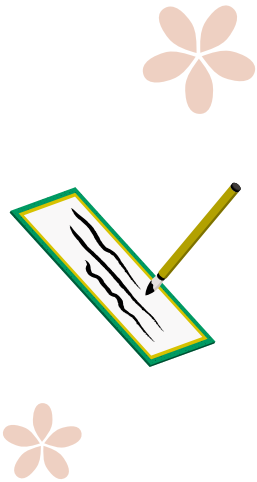
【チャレンジ部門・最優秀賞】

防犯は一人ひとりが主役です

【チャレンジ部門・優秀賞】

家族愛詐欺の力も跳ねかえす

＊
まあいいかそれが危険の第一歩



・・・第15回（2019年）・・・

■応募数：1万5811点

【最優秀賞】

＊
街中のカメラに勝る心の目

【優秀賞】

＊
耳寄りな話の裏に恐いわな

＊
孤独にはしなさいとせない街作り

【チャレンジ部門・最優秀賞】

＊
挨拶は犯罪防ぐ第一歩

【チャレンジ部門・優秀賞】

＊
出来心みんなで防ぐ社会の目

＊
離さない未来ある子の小さな手

・・・第16回（2020年）・・・

■応募数：1万5554点

【最優秀賞】

＊
我がことと思う心が身を守る

【優秀賞】

＊
犯罪の芽を育ててる無関心

＊
魅力ある話にひそむ落とし穴

【チャレンジ部門・最優秀賞】

＊
誘惑にすべて打ち勝つ強い意志

【チャレンジ部門・優秀賞】

＊
地域の目光らせ守る子の命

＊
あんしんはきみとぼくとでつくりあう

・・・第17回（2021年）・・・

■応募数：9747点

【最優秀賞】

＊
留守電に接待まかせティータイム

【優秀賞】

＊
今日もまた詐欺師どこかでTELワーク

＊
家庭でもヒヤリハットのミーティング

【チャレンジ部門・最優秀賞】

* 手をとればもう帰れない悪魔の手

【チャレンジ部門・優秀賞】

* 犯罪の数だけ増える涙あり

* 「いいね」より「いやだ」をいえるその勇氣

・・・第18回（2022年）・・・

■ 応募数：6003点

【最優秀賞】

* 話には乗るな詐欺師のショータイム

【優秀賞】

* 神さまとカメラが見てるその悪事

* ウイルスも詐欺の手口も進化する

【チャレンジ部門・最優秀賞】

* ことわれる君の勇氣に金メダル

【チャレンジ部門・優秀賞】

* インターネット広がる世界広がる危険

* 「二度だけ」それからすべては始まった

・・・第19回（2023年）・・・

■ 応募数：6484点

【優秀賞】

* 闇バイト参加の足で地獄行き

* サギ電に聞く力より切る力

【チャレンジ部門・最優秀賞】

* キラキラと見えるところに闇もある

【チャレンジ部門・優秀賞】

* 誘惑を断ち切る君は勇者だよ

* 大金に憧れるのをやめましょう

川柳で防犯意識芽生える

全日本川柳協会常任幹事

川柳きやり吟社主幹

安藤 波瑠

歴代の入選作品にはその時代ごとに、日頃から注意しなければならぬ事例が反映されています。「オレオレ詐欺」は2005年の第1回から今なお被害が続き、詐欺の手口はますます巧妙になっていることに驚かされます。

「還付金詐欺」「留守電」「防犯カメラ」「闇バイト」など作品のキーワードは世相を表しています。第7回（11年）、第8回（12年）の最優秀賞作品には「老い」や「孤独」が表現されており、被害に遭いやすい高齢者の姿を映し出しています。

小中学生の作品には、万引きなどの非行に手を染めてはいけないというしつかりとしたメッセージが込められた作品が多く、心強く感じています。

第12回（16年）の最優秀賞作品「目の前の危険をスマホは教えない」などのように、電子機器やインターネット、SNSなどデジタル時代の負の部分、危うさに警鐘を鳴らす作品は今後も増えていくでしょう。

川柳を作るときに作者は犯罪防止を真剣に考え、警戒心を強めます。防犯の気持ちで作者や読む人に芽生えれば、防犯川柳は使命を達成したと言えます。用心すべき事件が次々に起こる時代、被害防止を訴え続けることが大切です。川柳を通じて安全、安心を守る意識を高めてほしいと願います。

全国読売防犯協力会のウェブサイト ぼうはん日本



ウェブサイト「ぼうはん日本」は、YCの活動を広くPRするとともに、防犯意識の向上を目指して2007年7月に開設されました。

読売新聞の記者が取材した犯罪記事を掲載する「犯罪トピックス」や、これまで発行された「防犯リーフレット」を紹介するコーナー、各地の防犯セミナーの開催情報などがあり、同サイトのセッション数（訪問数）は年間で約11万に上ります。

「読売防犯川柳コンテスト」の歴史（21年まで）の入選作品などもご覧いただけます。

当サイトのマスコット「ボーケンくん」や、都道府県警察のマスコットを一堂に集めたコーナーも人気です。

ぼうはん日本



<https://www.bouhan-nippon.jp/>

犯罪発生マップ

各都道府県警察のウェブサイトに掲載されている犯罪発生状況・マップをまとめたリンク集です

防犯活動

主に読売新聞（朝刊・夕刊）に掲載されたYCや読売会での防犯活動を紹介するコーナーです

防犯一口メモ

ダウンロードして、そのままミニコミ紙やチラシなどに転用できる囲み記事集です

全国読売防犯協力会 事務局

＜東京＞	事務局長	大宮 律雄
	参 与	宮入 忠文
	参 与	櫻井 利行
	参 与	三坂 太
	参 与	鈴木 秀明
＜大阪＞	参 与	高橋 宏彰
	参 与	庭谷 充紀
＜西部＞	幹 事	掃本 直行

発行日／2024年10月1日

発 行／全国読売防犯協力会

編 集／読売新聞東京本社
販売企画調査部

「編集後記」

「わたしたちは、街の見守り隊。」

全国読売防犯協力会（Y防協）の設立10周年記念誌に掲載されたそのフレーズは10年を経て、ますます重みを増しています。

設立20周年の今年、Y防協は毎月25日を「全国統一防犯パトロールデー」に定め、全国の読売新聞販売店（YC）が子どもたちやお年寄りの見守りに取り組んでいます。節目の年に、活動の原点を見つめ直すためです。各地のYCからは、配達中の早朝などに街でお年寄りを見つけ、保護につながった事例などが次々報告されています。YCはまさに「街の見守り隊」の役割を担っています。

日々同じ時間帯に同じ地域を回り、届けるべき新聞を読者に届け続ける。その繰り返しの中でスタッフたちは街の変化に気づくことができます。販売現場では2020年から3年、新型コロナウイルス感染症防止の対応を迫られ、コロナ禍を経て23年は諸物価の高騰が続くなど、新聞業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。その中でも見守り活動を続けられるのは、全国で戸別配達網を堅持している読売陣営だからその強みです。

全国のYC所長やスタッフらの地道な活動の積み重ねにより、Y防協は今後も新たな歴史を刻み続けます。事務局として、YCとY防協の活動を支える重責に改めて気を引き締めています。

150年の歴史があるっていうけど、
いちばん読まれている新聞[※]って聞いたけど、
プロの記者が丁寧に取材するっていうけど、
記事をめぐって本気で議論してるらしいけど、
おじいちゃんはずっと読売新聞だけど、
私のまわりは情報だらけなんだけど、



読売新聞を、 信じてもいいですか。

確かな情報だけをあなたに。150周年の約束です。

読売新聞



地域とともに

20年

全国読売防犯協力会

読売新聞